本田財団レポート　No.125

「日本の森を蘇らすため、今私達に出来ること」

横浜国立大学名誉教授
(財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター長

宮　脇　　昭

財団法人 本田財団

講師略歴



宮　脇　　昭（みやわき　あきら）

横浜国立大学名誉教授
（財）地球環境戦略研究機関国際生態学センター長

《略　　歴》

１９２８年	岡山県生まれ
１９５２年	広島文理科大学（現広島大学）理学部生物学科卒業
１９７３年	横浜国立大学教授
１９８０年	国際植生学会副会長
１９８５年	横浜国立大学環境科学研究センター長
１９９３年	横浜国立大学名誉教授 （財）国際生態学センター常務理事兼研究所長
１９９６年	国際生態学会会長、長野県自然保護研究所長
２００７年	（財）地球環境戦略研究機関国際生態学センター長

《主な受賞歴》

１９９２年	ドイツ・ゴールデンブルーメ賞 (Golden Blume von Rheydt)
１９９３年	紫綬褒章
１９９５年	ドイツ・チュクセン賞（Reinhold Tuxen Prize）
１９９６年	日経地球環境技術大賞
２０００年	勲二等瑞宝章
２００６年	第 15 回ブループラネット賞　ほか多数

《主な著書》

１９７０年	『植物と人間』日本放送出版協会
１９８０年	『日本植生誌』全１０巻 共著　至文堂
１９８７年	『森はいのち ―エコロジーと生存権―』有斐閣
１９９７年	『緑環境と植生学 ―鎮守の森を世界の森に―』NTT 出版
１９９９年	『森よ生き返れ』大日本出版
２０００年	『鎮守の森』『木を植えよ』新潮社
２００５年	『この人この世界/日本一多くの木を植えた男』日本放送出版協会 『いのちを守るドングリの森』集英社　ほか多数

このレポートは平成 20 年 9 月 9 日パレスホテルにおいて行われた第 107 回本田財団懇談会の講演の要旨をまとめたものです。

ご紹介いただいた宮脇昭でございます。今日はこんなに日本の官界、学会、そして各種団体、企業のトップの皆さんにお集まりいただいて大変光栄に思っています。そして本田財団で、今回お話させていただくことは私にとって大変記念すべきです。

昨年からトヨタも、豊田章一郎名誉会長に言われ、そして渡辺社長以下従業員が、今年（2008 年）の 5 月 18 日に堤工場で 5000 人 5 万本植栽をしました。8 月 3 日にはタイのバンボーで 14500 人 10 万本植樹祭、来週からはインドのバンガロールの工場の森づくり調査に行きます。しかし、それよりも 30 年前にホンダはふるさとの森づくりをやられた。そしてその森は時には間違って切られたところもあるかも知れませんが、ちゃんと残したところは立派な森となっております。

森はそこで働き、また共に周りで生活している市民の命と、地域に根差した文化を創造する心を守る。そして何よりも皆さん、いま生きているというのは宇宙の奇跡でございます。

40 億年前にたった一つ地球に小さな原始の命が生まれて、長い長い間水の中で生活していたわけですが、4 億年前にビッグバン的な大変動があって陸地に這い上がりました。それから 30 数億年、長い長い時間をかけて植物、動物、そして人類が出たのは、たった最近の 500 万年、あるいは 600 万年前と言われます。それは長い地球の命の歴史に比べれば、命の歴史を 1 年の映画にしたら、365 日の除夜の鐘が鳴る前の 1 分間とか、あるいは数分間とかと計算されています。その 500 万年の中の 499 万年以上は皆さんの先達は、森の中でびくびくしながら、猛獣に襲われるのを逃げ回りながら、落ちてくるドングリを拾ったり、あるいは若草を摘んだり、小川の小魚を、あるいは海岸では貝を拾って生き延びてきたわけです。

ただ、人間が他の生物と違うことは 2 本足で立つことが出来るようになった。両手を使うことが出来るようになりました。そして今日、ご出席の医学関係の皆さんご承知のように、まさに唯一の、どう言いますか、奇形的に人間だけが大脳皮質が異状に発達しました。そこでかつて手で、そして人間だけが知恵によって土で、石で、そして銅で、鉄で、今や原子力まで使って私たちの刹那的な願望を、生理的、物質的、あらゆる欲望を満足させている。まさにかつて人類が夢にも見なかったほどの、豊か過ぎるほどの生活をしています。それにもかかわらず、なぜ、動物でもやらないような、家庭において、学校において、簡単にちょっと困ればすぐかけがえのない自分の命を絶つ、あるいは相手を殺すという極めて不安な状態になっている。これは一体どういうことであるか。

もう一度我々は、この単に科学・技術的に死んだ材料での規格品づくりの工業製品的なこと、もちろん本田技研の車も大事でございますが、それを造れば造るほどもう一つ生き物としての人間の本質的な、基本的な理解を持たないと、一時的には商売も、経済も発達しますが一番大事な命が維持出来ない。現在すでに、そのクリティカルポイントに来ているわけです。どうか日本を代表する識者の皆さん、どんなに我々が科学・技術・医学を発展させ、どんなに財を積んでも、実は腹が立っても、皆さんはこの地球では、生きている緑の植物、しかも芝生の 30 倍の緑の表面積が濃縮している、土地本来の本物のふるさとの木による、ふるさとの森の寄生虫の立場でしか生きていけない。その寄主の立場の緑の森が今やほとんど破壊されている。

私は 58 年間、日本列島各地、現地を調べた結果を国際会議でも発表していますが、今 1 億 2000 万人の 92.8％が住んでいる、いわゆる照葉樹林、冬でも見られる常緑広葉樹林、植物の

名前をあまり言うと判らなくなりますが、シイ、タブノキ、カシ類などを主木とした、植物社会でもトップと三役、五役の樹種が本物なら子分も本物です。

では、皆さんが住んでいる照葉樹林帯とも言われる、冬でも見られる常緑広葉樹林帯の三役は、せっかくいらしたので覚えていただきたい。それはタブノキ。浜離宮、芝離宮に今から250年前に植えられたあのタブノキが、150回あった江戸の火事にも、関東大震災にも、焼夷弾の雨にも生き残って、今日なお東京砂漠の緑のオアシスとなっています。

その次はシイノキ。スダジイとコジイとありますが、関東はスダジイだけですがシイノキでいいです。これは芝白金の自然教育園、かつてどこかの殿様の江戸屋敷をつくるのに、周りに小さな土塁を築きまして、そこに植えたシイ、スダジイが、同じく二百数十年前に植えられたのが火事にも地震にも台風にも生き残って、今、国の天然記念物になっています。

そしてカシ。ちょうど昔から生き残った集落は北風を防ぐため、西日があたれば蚕も死ぬ。そこには土地本来の本物の根がまっすぐ深根性で台風にも地震にもびくともしない。火事に対しては火防木（ひぶせぎ）になる。あるいは冬は北風を防ぐシラカシ、アラカシ、ウラジロガシ、関西ではイチイガシ、ツクバネガシ、沖縄ではオキナワウラジロガシ。カシ類が主木です。どうか、シイ、タブ、カシ類が三役、五役でございます。1億2000万人が住んでいる照葉樹林帯で、それは東京、関東では海岸から海抜800メートルまで。そして北に行きますと、海岸沿いでは釜石の北、タブノキ荘という国民宿舎があります。

そして日本海岸側ではあの山形県の酒田市で、今から30数年前に大火事がありました。1700戸の家が焼けたのですが、たまたま本間家という古い家敷に、北限に近いのですが冬も緑のタブノキが2本あって、そこで大火が止まっていました。我々の調査結果を踏まえて酒田市長は、「タブノキ一本、消防車一台」というかけ声で、町のモール街、小学校の周り、下水処理場の周りに植えました。木は生物としての人間が、健全に生きている証ですが、人間の刹那的な欲望を満足させるのに都市の中では邪魔になる、落ち葉が落ちる、商売の邪魔になると言われます。むしろプラスになるのですが、せっかく学校で子どもたちが植えたのに、次の教育委員会や校長がどうも日陰になるとか、あるいは変なやつが来たら見えないからと切ってしまった。

皆さん、本日は教育関係の方もいらっしゃいますが、入ろうと思う輩は木があろうとなかろうと入るのですよ。（笑）それをたまたま3万いくつある日本の小中学校で一つのところに不埒者が入ったからと言って、全部の学校で木を切ってしまえば免罪符になるというふうな行政は、一面的で間違っているのではございませんか。不埒者をつくったのは、彼らも日本の小学校、中学校を出ているのですから教育の問題です。違うことを同じテーブルで議論すれば引き算ばかりで何も出来ません。私は引き算は一切やりません。前向きに足し算です。

例えば今のCO_2の問題でも、省エネはいろいろとやらなければいけません。何をやっても今に戻すのが精一杯、引き算であります。我々は車も、電気も使わなければいけない、機械も動かさなければいけない。いちばんプラス思考とは今の問題の地球温暖化でも、これは3億年前にまだ植物の進化の途中でシダ植物の時代でしたが、今と同じような間氷期で、高温多湿でシダ植物が木生化した大森林が出来ました。そして光合成で太陽の光のエネルギーをどんどん吸収して、次のビッグバン、たぶん氷河期で土の中に埋まって3億年間バランスが取れていたわ

けです。幸か不幸か 18 世紀の終わりに蒸気機関が出来、産業革命をして、人間も含めた生物圏、そして海も含めた地圏、さらに大気圏とのバランスが炭素の循環で取れていたのを、今まで土の中に埋まってバランスが取れていたのに、化石燃料として引っ張り出して燃やすものですから、すぐ化学反応を起こしてカーボンが空中に放出され、O_2と一緒になってCO_2が増えてきている。

いちばん間違いなく、すぐ、誰でも、どこでも出来ることは、もう一度小さな木を植えて大きくして、その中にカーボンを閉じ込めることです。例えば本田技研で植えていただいた、小さなポット苗を植えた時はせいぜい樹高 30 センチ、乾燥重量が 300 グラムぐらいの幼木が大きくなって、根も茎も枝も含めてドライウェイトが 2 トンになっていたとすれば、どんな計算をしても 1 トンはCO_2 なのです。

そう見た時にもちろん 50 本、100 本植えても仕方がないが、それを 1 億 2000 万人が、66 億人がすべての学校、医院、工場、家の周りから施設の周り、道路の周り、河川沿いに植えたらどうなるか。もちろん一方においては発生源対策を徹底的にやらなければいけない。しかしいくら省エネをやっても元に戻すのが精一杯。なぜ皆さんは簡単にCO_2の売り買い、あるいは我々が調査した、カーボンを閉じこめる立派なブラジルアマゾンの森を切って、焼いてしまう。そして、動物や人間が食べるトウモロコシやサトウキビを植えて、そこから効率の悪いエタノールをつくって、もしそれがうまく行ったとしても、どうせ 3 割しか使えないのでしょう。エネルギー庁の環境顧問を 28 年やらせていただいた時に、各電力会社の専門家が言っていました。「どんな素晴らしい発電所でも、出たエネルギーの 3 割ぐらいしか使えない」と。そうしてそれを使ってやったとしても元に戻すのが精一杯。今がクリティカルポイント。

その森づくりは、今まで山に木材生産としてのスギ、ヒノキ、マツを植えて大失敗をしている。誰も責任を取らない、無責任。困っているのは林業家の人たち。今まで 20 年以上下草刈り、枝打ちをしてやっと森になった。それが外材に負けて切れば赤字を出すばかり。生物は同じものをモノカルチャーしているから、早く 50～60 年で過熟林になります。生物は弱ると子どもを増やそうとします。花が咲きます。花粉で皆さんも苦労している。しかも、もともと針葉樹は根が浅い、浅根性、しかも老熟しますと簡単に必ず襲う自然の揺り戻し。先般の東北の地震でも、テレビに出ていた大きな山崩れは、全部針葉樹のカラマツやヒノキの根が浅いのを、モノカルチャーしているのが表土と一緒に流れているわけです。

今や植物の世界でも偽物が横行しています。どうか皆さん、本物と偽物、毒と毒でないものを見分ける研ぎ澄まされた動物的な勘と、人間の知性と感性を磨いて下さい。今、市民もそろそろ本物志向の時代になっています。本物を求めて行きます。私はまだたった 80 歳。あと 30 年木を植えると公言していますが、それは生物学的には可能なのです。今も理事長と話しましたが、よほど悪いことをしなければ男性は 118 歳まで、女性は 125 歳生きられる。だから後 30 年と言っても 110 歳、これくらいは生きられるはずなので、どうか皆さんも頑張って下さい。今日、理事長だけは私よりも年上ですが、西田先生もそうかも知れませんが、後は大体皆私より若造でございますから、どうかそういう意味で、未来のために引き算をやめて、前向きに足し算で堂々と生き森を創って下さい。

本田技研との出会い

ふるさとの森づくりを最初に実施したのは新日鐵、続いて本田技研でございます。これも今日いらっしゃっている西田副社長、当時、横浜国大の工学部のご出身であり、同窓会で私が今日の話方よりもうちょっと厳しく話しました。それを理解された。それから川島副社長が偶然、横浜国大の経済を出ていらっしゃいました。そこの経済学部の同窓会でも、また私が頼まれて話をしました。もう一回は当時の河島社長から、経済同友会でお話をと宮脇昭が偶然やらされた。その頃はまだ誰にも相手にされなかったのですが、その時、宮脇昭の話を聞いて、うちは管理費が高すぎると言っていました。当時はいわゆる緑に化かす、緑化、芝生に木をポツンポツンとつっかえ棒で植えていたから､何と管理費が毎年 2 億 2000 万円かかっていたそうです。ちょっと金がかかりすぎる。宮脇の話を聞いたら、金がかからないと言っているからあいつを呼んで来いと。そうしたら両副社長もそれはいいじゃないかということで、今でも覚えていらっしゃるでしょうか。本社のトップ研修会で、徹底的に私は……。今日はやさしく話をしております。（笑い）

大体生物社会ではトップ、三役、五役は分かるわけです。どうも真ん中辺に不透水層がありまして、社長、副社長が話されても、うちは電気を、鉄を、あるいは自動車を造っていますと。そんなことは後にして下さいと言いました。そこで引っ込んだら、そのトップは偽物です。社長から「文句を言わずにやれ」と言われたのかどうか知りませんが、トップダウンでそこから始めて、今では本田技研は世界に誇る森づくりを行いました。現在の社員は当然と思っているかも知れませんが、大変な決断だと思います。いま横浜ゴムもトヨタさんもやって下さっていますが、30 年前に新日鉄に続いてやっていただきました。幅 1 メートルで出来るわけです。

本日の趣旨

そういう問題を含めて、本当は 3 時間いただきたいのに、たった 1 時間でやって下さいと。前置きが長いと、せっかく 1 万 2000 枚の調査の時に撮って来た写真を絞りに絞って、何枚ありましたかね、200 枚ほど入っています。今日は日本語ですから、少し早めに言いますが、ぜひ皆さん、せめて木を植えることも、生きることも、ビジネスも、社会貢献も哲学です。日本人は小手先の対応は非常にうまい。しかし、本質を理解していない。科学者もそうです。個別なことは結構やりますが、トータルとして考えることはどうも西欧に負けてしまいます。それは我々は縦割りの個別的な教育をされ、人事管理をされて来すぎました。どうかトータルシステム、命はトータルシステム、細胞一つも、あるいは人間もそうです。そういう意味で基本的なことをご理解いただいて、あとは私が書いた 30 冊ぐらいの本を読んでいただければ解ると思います。今日いただいたテーマは「日本の森を蘇らせるために今私達が出来ること」。みんな出来ることです。

宮脇方式



写真－1



写真－2

〈写真－１〉　これが本田技研の当時の宇都宮のテストコースの周りです。小さなポット苗を植えていただいたのを、１７年前ぐらいに撮った写真です。ご覧のように、こういう森が幅 1 メートルで出来る緑の壁であります。防災環境保全林、平時は本物に接することが出来ない生きた緑の保養所になります。どうですか。今いちばん大事なのは、山にスギの木を植える、里の雑木林も管理費がかかります。大事なのは国際的な Urban Forest、Industrial Forest、都市や産業立地に命と心と遺伝子とを守る、経済と共生し、エネルギーと共生した森をつくること。それがいちばん大事であることをご理解いただきたい。

〈写真－２〉　これは 91 年 5 月 8 日に撮っている。今、さらに 2008 年になっています。もちろん生物は人間もそうですが、10 代まではどんどんと上背が伸びます。後はゆっくりで、横に張りますが、邪魔なら横枝は切っても良い。頭は切らない。なぜ日本人は人事管理も、緑の管理もすぐ規格品をつくるか。（笑）10 年たてば 10 メートルの森が出来るわけです。木を植えれば管理費が要る。偽物をお植えになるからです。本物は管理費が要りません。定規を使うのは死んだ材料だけ。自然は皆さんの顔、手の指紋、歯形ほどの多様性を持っています。多様性こそ、最も強い自然の表現力であることをご理解いただきたい。幅 1 メートルでもこういう森、防災・環境保全林の緑の壁が出来るわけです。



写真－3



写真－4

〈写真－３〉　これは神奈川県の肢体不自由児の学校の理事長が、何か良い方法はというので、子どもたちでもこういう斜面でも森が出来るという例です。〈写真－４〉そしてこれは仙台の輪王寺の和尚さん、日置道隆さんという副住職が非常に熱心で、何と寺の周りに３万本の木を市民と一緒に植えました。



写真－5


写真－6

〈写真－５〉〈写真－６〉　あるいは横浜ゴムでは昨年（2007 年）から「千年の杜づくり」で、町の中にあるほとんど木を植えるところがないような平塚事業所ですが、富永会長、南雲社長、そして大蔵平塚市長も出まして、一緒にこのように植えている。私は必ずトップに植えさせます、ご覧のように社長に。そうしますとほかの人も植えます。まずトップ、三役、五役が本気でやること。この「千年の杜づくり」にも、私の周りに自然発生的に出来た「まぜる会」の皆さんが、身銭を切って日本の各地から木を植えに来るわけです。


写真－7（足尾）


写真－8（佐世保）

〈写真－７〉　これは JR 東日本の労組の皆さんが、足尾鉱山の廃坑跡に「森びと委員」をつくって、毎日新聞の岸井さんも理事長になって下さっていますが、宮脇方で一緒に植えています。こういうふうに皆さんが初めは仕方なしですが、1 人が 10 本以上を植えますと、皆さん、夢中であとは身銭を切って国内はもちろん、ボルネオ、アマゾン、ケニアまで出かけて行くわけであります。



写真－9 （札幌）



写真－10

〈写真－８〉〈写真－９〉〈写真－10〉　この森づくりは命をつくる森づくり。そしていっぺん木を植えさせると、こんな幸福感を味わっている顔でどこまでもきてくれる。そして何よりも子どもたちに命の、生（なま）の命の尊さ、はかなさ、厳しさ、素晴らしさをいくら学校で教えてもだめです。現場で自分で木を植えながら、生物的な本能としてすり込ませる。そこまでやらなければ日本の本当の命の教育は成立しません。

なぜ私が森にこだわるか



写真－11

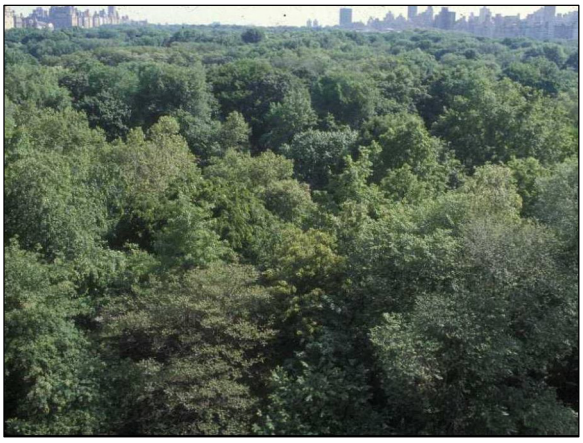


写真－12

なぜ、私が森にこだわるか。世界の、地球のほとんどすべては、実は家畜の放牧によって森が破壊されました。〈写真－11〉最後の氷河が去ってから 9000 年、例えばこれは北西ドイツですが、〈写真－12〉家畜の過放牧などによって森が破壊されて、あとは英語のヒース（Heath）、ドイツ語のハイデ（Heide）、日本語の荒れ野。ゴルフ場か、家畜の代わりに人間を放牧する、税金をかけて日本の行政がいつまでもやっている芝生公園、緑の表面積が森の 30 分の 1 しかない。管理費は永遠にかかる。そういうものしかつくっていない。都市公園の原形のハイデは彼らが肉食人種であったこと。

リューネブルガーハイデというのがドイツのハンブルクとハノーファーにあります。４万ヘクタールで 1909 年に自然保護区に指定された。そこは下に岩塩が出るから、岩塩を製塩する

ために、さらに家畜の放牧で森が完全に破壊されて、ヒツジも食えないエリカやカルーナの荒原に矮性低木がポツン、ポツンと。これがいわゆる公園景観、Park Landscape。ドイツ語のParklandschaft、荒れ野景観です。
今日本の行政が、あるいは企業の皆さんが税金をかけて永久に金をかけながらつくっている芝生公園は、エコロジカルには荒れ野景観であるということを知っていただきたいと思います。〈写真－11〉参照



写真－13

では、21 世紀の都市の中の森とは、皆さんご存知の、世界で今いちばん発展している大都市ニューヨークのど真ん中のセントラルパークであります。〈写真－13〉これが都市の中の、新しい時代の公園：森である。防災環境保全林であり、しかも命の尊さ、はかなさ、厳しさをこのアーバンフォレストの中で味わわせる。管理費も要りません。地震などいざという時には逃げ場所、逃げ道になります。



写真－14



写真－15

なぜ世界の森が破壊されたか。中国も皆さんが北京から飛行機で 5 分か 10 分、北西に飛ぶと今でもこういう半砂漠状態。〈写真－14〉〈写真－15〉ご覧のように、中国の内陸部ですが、家畜の過放牧により森が破壊されますと、雨は 400 ミリしか降りませんが、一雨降るとしっかり土を押さえていた根群が枯死するので、土砂が崩壊して黄色の半砂漠状の黄土地帯とな

ります。中国の内陸部はほとんど半砂漠になっていることをご存知いただきたい。ヒツジ、ヤギ、カシミヤヤギ。家畜の放牧はメェー、メェー、子ヤギが鳴いて牧歌的だと思うかも知れないが、9000 年来家畜の放牧によって地球の森が破壊されたわけです。



写真－16



写真－17

一方、私たち日本人は 4000 年この方、集落をつくったり、町をつくったりして、森を破壊したけれど、皆殺しにはしなかった。例えばこれは愛知県の一宮市にある小さなお寺〈写真－16〉や〈写真－17〉各地の神社の森。この鎮守の森の中がうれしい時にも、悲しい時にも、人をいやし、嬉しい時には踊りや憩いを与え、そして東京以西は海抜 800 メートル以下は、冬も常緑のシイ、タブ、カシ類が主木で、葉が厚く水を含んでいる火防木であります。根は深根性、直根性で何メートルも入っているから、津波にも台風にもびくともしない、逃げ場所や逃げ道になる。私はその中に神様がいるか、仏様がいるか良く判りませんが、この都市の中の森こそ命を守る森であり、4000 年この方、私たちの先達は集落、町づくりには、ふるさとの木によるふるさとの森をつくってきた。その日本人しか創らなかった鎮守の森が、80 数年前の明治神宮の森以来何もつくられていない。何を日本の政府は、あるいは企業は、私たちはやってきたか。鉄、セメントによる非生物的な都市や産業立地しかつくっていない。

自然は自然の一員として皆さんの顔のように、ほっぺたのように触っても良いところと、どんなに好きな相手でも目の中は指 1 本でだめになります。山のてっぺん、急斜面、引っ込んで濡れている水際は弱い自然です。だから尾瀬の湿原は人が入って踏むだけでもだめになります。

日本の緑の現状－偽物はだめ－



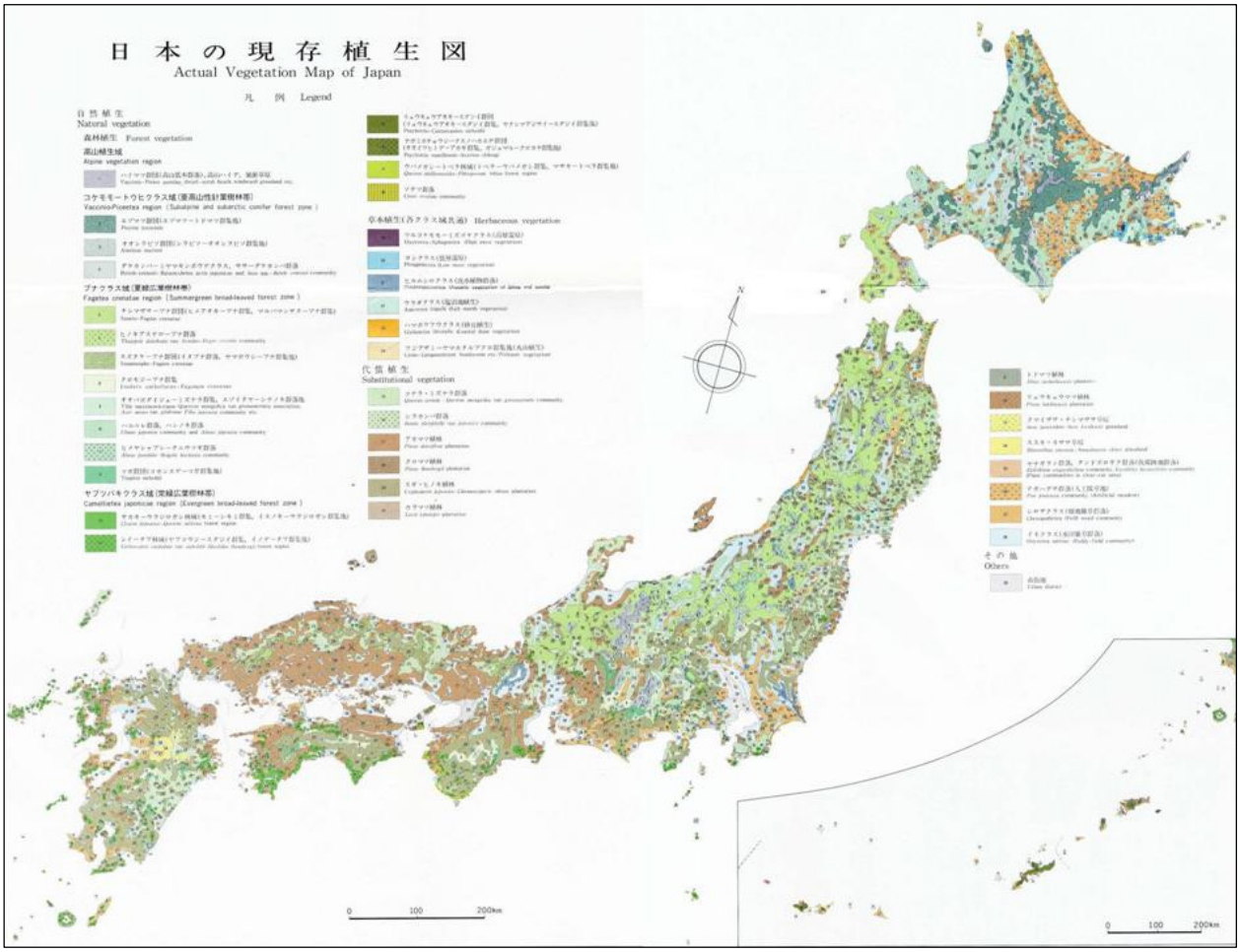
写真－18

〈写真－18〉　これは先年、地震があった上越地震の少し南の若狭湾沿いであります。この森を伐採したら、冬の季節は大雪なんかで昔の草葺き屋根なんかは吹っ飛んだかも知れない。今日のような科学的な見識も知見もなかったが、幸いにも日本人は宗教的なたたり意識で、この森を切ったら罰があたる、この水源地にごみを捨てたら罰があたるということで弱い自然を残してきた。愚か者に破壊されないように、森の中や周りに神社やお寺をつくってきました。



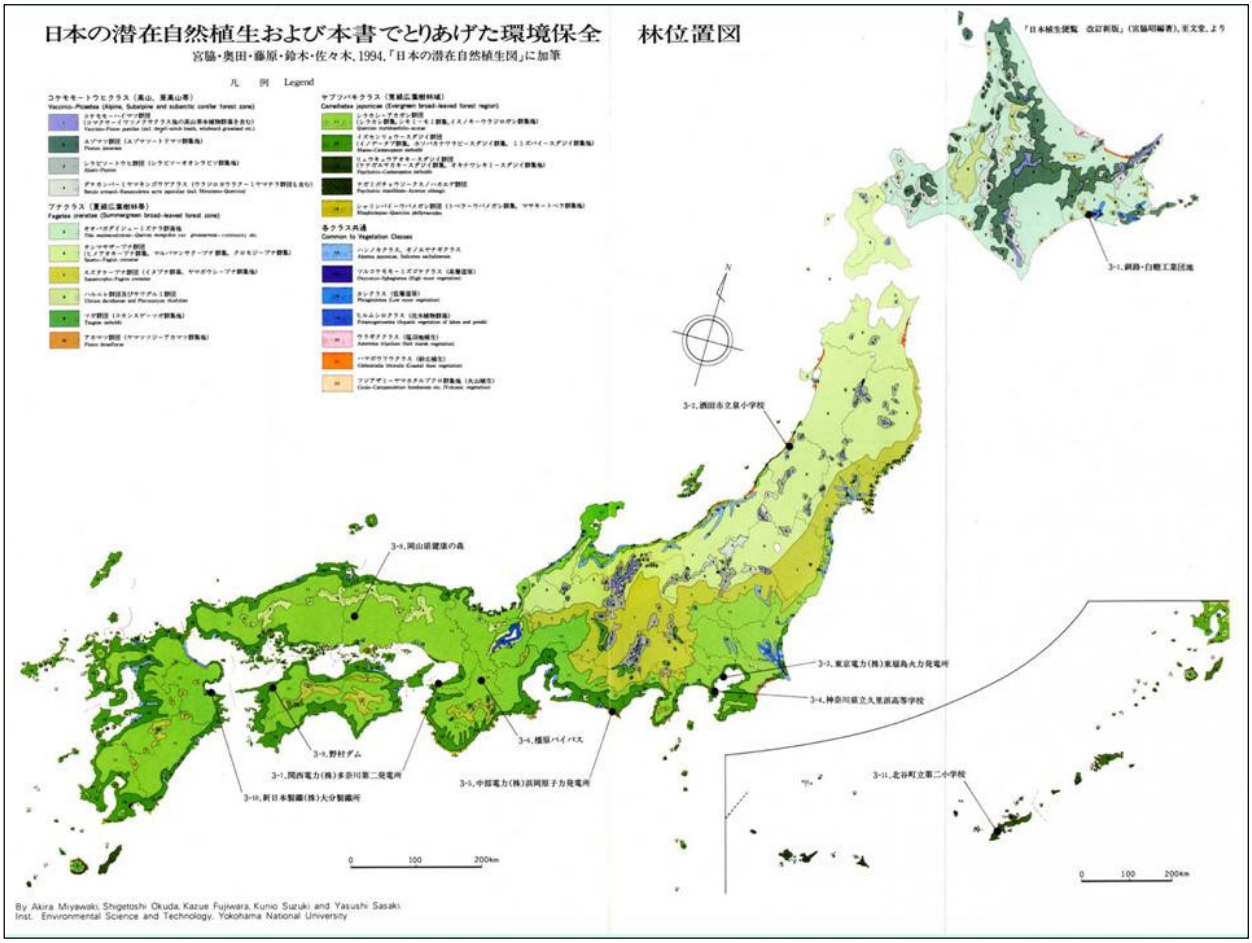
写真－19

〈写真－19〉　皆さん、東海道新幹線で京都に行く途中、三島の東レも私がつくった森がありますが、それを過ぎますと茶畑や、あるいは瓦屋根の砂漠の中にぽっこりと、冬も緑のオアシスがあります。中を我々が降りて調べると、壊れかけた祠や、あるいは鳥居、お地蔵さんがあります。これが世界に誇る日本人の英知、鎮守の森でありました。今はどうなっているか。



写真－20

〈写真－20〉　我々が 58 年かけて足で調べた日本列島、これが今の緑の現状診断図です。いかに虫食い状態になっているか。皆さんが見ている緑のほとんどは偽物でございます。偽物も分かって使えば良いが、それを本物のつもりで使うと、命をかけて代償しなければいけない。



写真－21

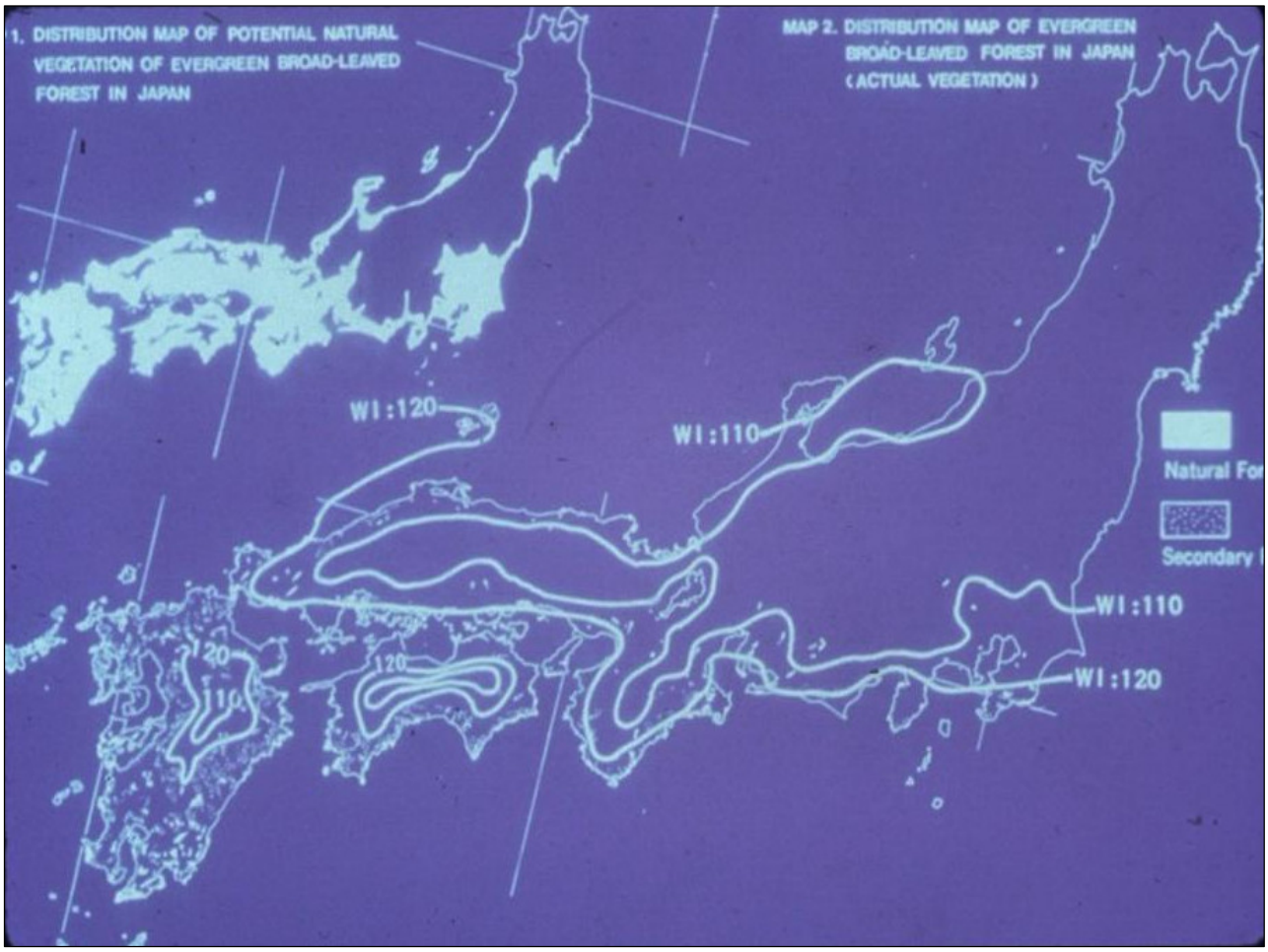


写真－22

〈写真－21〉　これがご紹介いただいたドイツで学んだ潜在自然植生です。今着物の上から触らずに中身を見るような方法で、もし人間の影響をストップしたら、そこの自然環境の総和がどのような緑となるか。日本列島の 98%はその土地本来の森です。ほとんど照葉樹林です。

〈写真－22〉 例えば関東以西では、海岸から海抜 800 メートルまではこのような冬も緑の常緑のシイ、タブ、カシ類、それを支える亜高木のヤブツバキ、モチノキ、シロダモ。すなわち

シイ、タブ、カシ類を主木にした、常緑の照葉樹林文化帯とも呼ばれる常緑広葉樹の森で覆われていた。これが日本文化の原点だった。



写真－23

〈写真－23〉　ところが今、緑化した、緑化したと皆さん言うが、本物の森は私たちが現地で調べた結果では、潜在自然植生が常緑広葉樹林域（写真－23 上部の白抜き部分）に、現在なお日本人 1 億 2000 万人の 92.8%が住んでいる。その森は二次林を含めても、本来の森のわずか 0.06％（写真－23 の下図）しかない。これを私は国際会議で発表していますが、いかに皆さんは偽物の緑にごまかされて、必ず襲う地震や台風で命を失わなければいけないか。

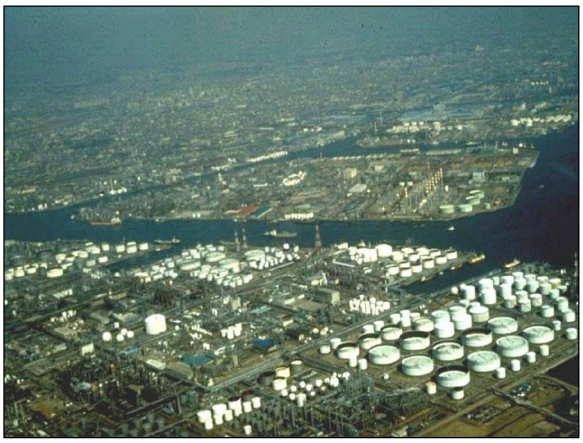


写真－24



写真－25

〈写真－24〉　しかし、我々がヘリコプターで上から見ますと、東京、横浜の周りでも昔から生き残った集落は立体的な森に囲まれて、時に落ち葉が落ちても、日陰になっても我慢しながら固有の文化を築いてきた。これが日本人の英知であったわけです。ところが今はどうなっているか。例えば私が住んでいる神奈川県は、全国土の 200 分の 1 弱のところに人口は 900 万人、横浜市は 360 万人、東京に次いで多くなった。その結果どうなっているか。〈写真－25〉これは湘南地方で、全国でいちばん住みやすいといったところを、冬、県のヘリコプターで私が撮った写真です。人間は増えたかも知れないが、水際は鉄筋やセメントで二面張り、あるいは下まで三面張り。死んだ材料だけで出来た住宅砂漠で生まれ、セメントだけで出来た学校で学び、しかもセメントと石油化学製品で出来た工場で働いている人たち、このような環境の中で、あなたの愛する人たち、隣人たちのかけがえのない遺伝子が、守れるかどうかということを知っていただきたい。



写真－26

〈写真－26〉　飛んで火に入る夏の虫のように若者が集まる東京湾沿いの現在の姿です。なお、すべて宮脇昭が使っているのは、航空写真も含めて 1 万 2000 枚全部、宮脇昭が自分で撮った写真です。写真一つでもよその人のものは使いません。ヘリコプターで全部撮った写真です。ご覧のように一時的に経済効率が上がっても、鉄とエネルギーとその廃棄物。こういうところで生き物として人間がいつまで生き残れるか。市民は生物的な本能で緑化を要求してきました。

今まで行政がやった緑化とか、緑に化かせる緑化とは、1 本に何十万も何百万もかけて、よそものの木を持ってきて、根がないから 1 本 3000 円のつっかえ棒で支える。植木屋さんは 3 本で 1 万円のビジネスになります。これがすべて 1 年保証です。植木屋の息子がうちの大学にきて、親父に教わったのは 18 カ月目くらいに枯れればいちばん良い。また商売ができると言ってました。こんな木を植えれば金がかかると言われるのは偽物をお植えになるからですよ。1 本 300～500 円の根群の充満したポット苗など、本物の幼木を自然の森のシステムに沿って植えれば、3 年たったら管理費は要らない。芝生にしても芝刈り、目土入れなど管理は永遠にかかる。緑の表面積は森の 30 分の 1 で冬は枯れてしまいます。音も臭いもガスも、津波も通してしまいます。こういう偽物は良くない。どうか、まず本物志向であって下さい。

本物の森づくり



写真－27 （東電･扇島発電所）



写真－28 （現場で徹底的に植生調査を行なう）

私が提案するのは大きな木を植えさせない。大きくなる力を持った三役、五役。土地本来の森：潜在自然植生の主木群の幼苗を混植・密植する。例えば〈写真－27〉を見ていただきます。樹高 30cm の幼木を混植・密植して 9 年目です。東京湾の埋め立て地扇島であります。東電の環境部長が、「ここに先生の言う森をつくって欲しい」と言った。当時同僚の植物生態学者たちは「おい、宮脇、やめた方が良い。おまえの言う本物の森は 300 年かからなければ埋め立て地には出来ない」と言った。大学の教師はしゃべることや書いた論文は何とか切り抜けられますが、植えた木が全部枯れたら腹切りもの。大体逃げてしまいます。私は植えた植物には命をかけている。もし皆さんが職をかけてもやると言うのなら協力します。もちろんここは埋め立て地です。何が本来の森か、現在の潜在自然植生：Today’s potential natural vegetation かも判りません。〈写真－28〉しかし、すぐそばの浜離宮、芝離宮には 250 年前に植えられたタブノキやシイノキがある。植生調査してそのドングリを拾ってポット苗を育てて植えました。木を植えれば良いのではありません。偽物はやめていただきたい。植えない方が良い。ニセアカシアなどを植えると、後の子分の下草はセイタカアワダチソウかブタクサしか出てきません。本物志向です。その本物とは皆さん、長持ちするものですよ。110 歳、120 歳まで生きていただきたい。

浜離宮から種を拾って来て、芽の出たポット苗を三役、五役のシイ、タブ、カシ類を中心に

それを支える亜高木のモチノキやシロダモ、ヤブツバキ、ヤマモモ、カクレミノなどを混ぜる、混ぜる、混ぜる。好きなものだけを集めない。三役、五役を中心に、それを支える出来るだけ多くの樹種を自然の森の掟で混植・密植します。ボルネオ、アマゾンでは平米に 500 本ぐらい芽が出ている。筋に植えない。混植、密植をします。そして敷き藁を落ち葉の代わりにします。縄で飛ばないように押さえます。3 年ぐらいは雑草が生えるかも知れない。雑草というのは帰化植物で陽性ですから、すき間があれば生えます。だから 2、3 年は取らなくても良いが、出来れば雑草を抜いて、捨てないで裏返して林床に置いて地球資源として使います。出さない、捨てない、焼かない。

東電扇島の写真を良く見て下さい。300 年どころか 9 年たてばこうなるわけです。本田技研の工場や研究所の周りも森になっています。最高の技術で造られる皆さんの企業活動は本物の森とのみ共生する。皆さんと共有した哲学を基本にして木を植え、命の森をつくっていただきたい。そのためには徹底的な現地調査をやります。365 日の 260 日はもっぱらこの写真のような格好です。今日は、女性の皆さんのためにネクタイをしていますが、これはいちばん似合わない。作業服に麦わら帽を被って現地へ行きます。現場、現場、現場ですよ。

どうか皆さん、部下任せにしない、業者任せにしないでいただきたい。専門に関係はございません。本物か偽物か。毒と毒でないものを見分ける研ぎ澄まされた、動物的な勘と人間の知恵、感性を持ってまず現場に行きます。そして我々はご覧のように高木、亜高木、低木かを調べて、何が土地本来の森の主木群であるかを徹底的に調べます。そしてその結果描いたこれが 3600 万人が住んでいる関東地方の緑の潜在自然植生図。これは緑の現状診断図で新しい学校をつくったり、道路や工場などをつくる際に、ここは残存自然林があるから避けた方が良いとか、まず、現在の植生を調査し、その配分を現存植生図として描きます。東京湾沿いは植物砂漠だから木を植えなければいけない。しかし、今までスギ、ヒノキ、マツ、ポプラを植えてもそれではだめです。皆さん、今我々が調べているのは着物の上から触らずに中身を見るにはどうしたら良いか。私は植物に限っては判るわけです。それには写真のように現場、現場、現場です。



写真－29



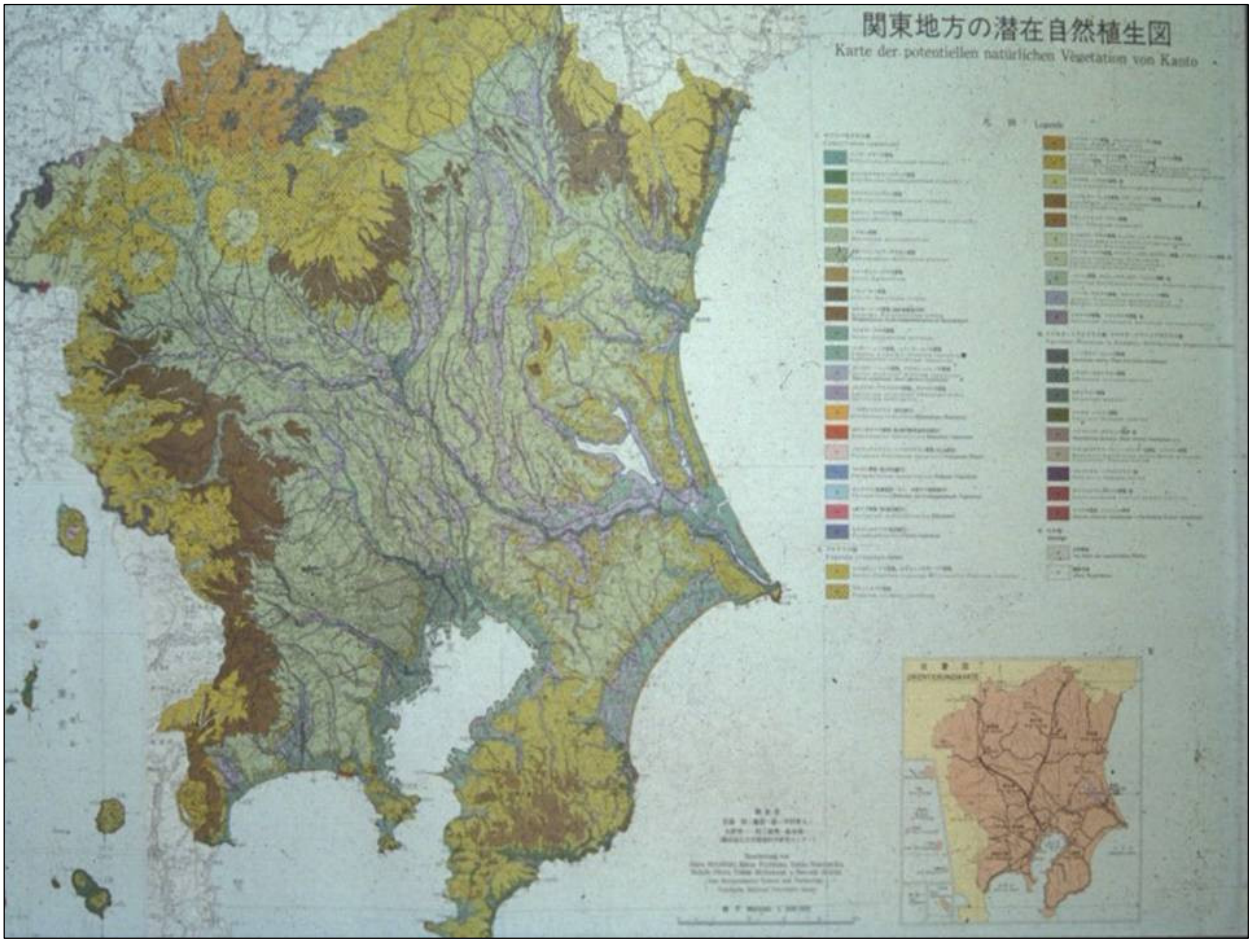
写真－30

〈写真－29〉　現場に行きますと、必ずこのような住宅群やコンクリート砂漠の中でも、小樹

林が、自然のかすかな本物情報を発しています。自然が発しているかすかな情報から、見えない全体をどう読み取るかが人間に残された最後の知恵でございます。コンピュータに任せる、部下任せ、業者任せにしないでいただきたい。自分の頭で、目で、手で見ていただきます。

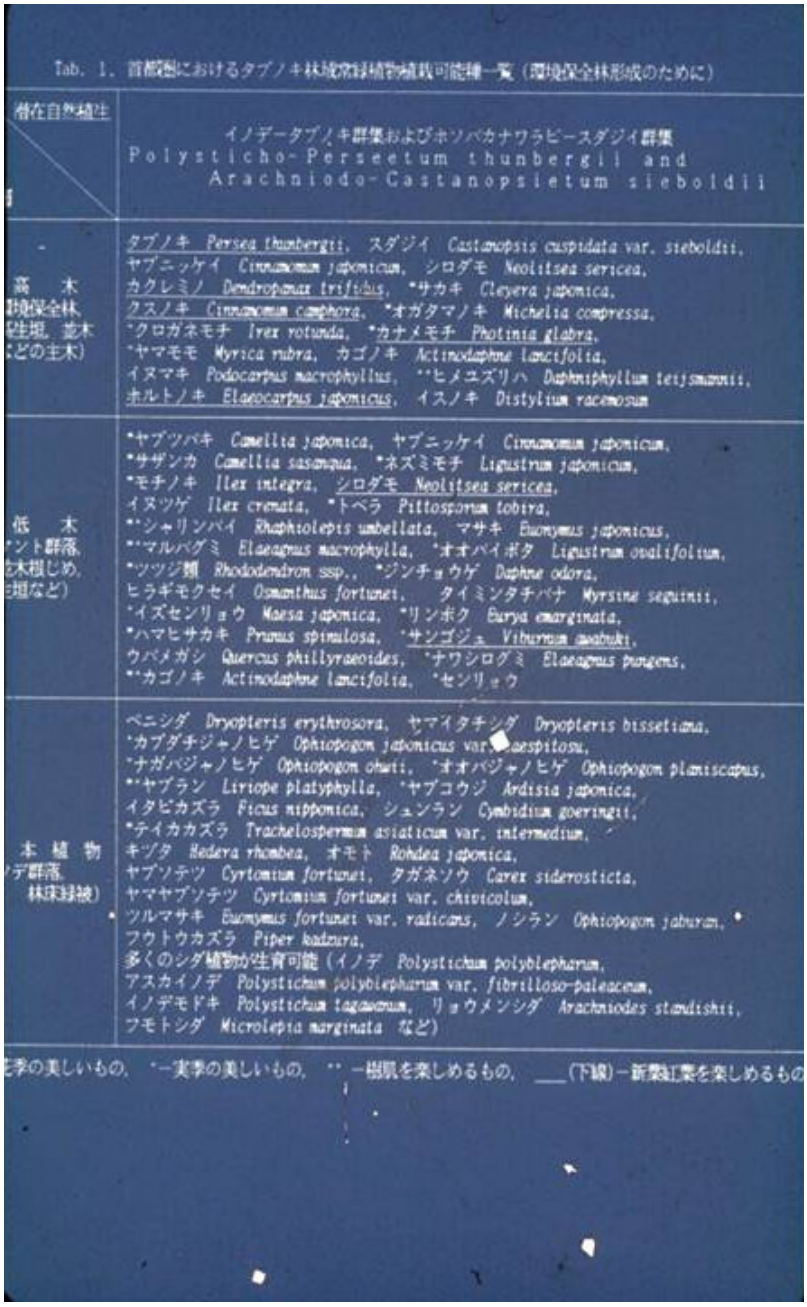
〈写真－30〉　そして生き物は厳しい環境で本性を発揮します。厳しさに耐えたもののみが本物です。日本では冬にも緑で常緑の広葉樹が本物です。ところが今、里山の雑木は残すと行政も企業、市民団体も言っていますが、これは何百年もの間、化石燃料がないから木炭や薪を取るために 20 年に 1 回切って再生萌芽林をつくってきた。化学肥料がありませんから 2～3 年に 1 回下草刈りをして田んぼに入れていた。このような粗放的ですが、定期的な人間の影響によって、土地本来のシイ、タブ、カシ類の常緑樹の再生が少し衰えますと、もう少し高いところとか山の上にあった落葉広葉樹のクヌギ、コナラ、エゴノキ、ヤマザクラが国木田独歩の『武蔵野』に見られているように、里山の雑木林になった。管理を続けないと荒れてヤブになります。今は燃料革命で木を切らなくなった。冬になると威張っているクヌギ、コナラ、エゴノキは皆枯れ木と同じで音も臭いもガスも通します。その下には土地本来の潜在自然植生の構成種である、シイノキ、タブノキ、カシはカシ類のシラカシ、アラカシ、ウラジロガシ、アカガシ、ツクバネガシなどが芽生えています。

あるいは、それを支える低木のヒサカキ、ヤツデ、アオキが下から出ています。



写真－31

〈写真－31〉　こういう林床に芽生えている植生を総合しまして、もし人間の影響をストップしたら、現在の自然環境が終局的に支える、Today's potential natural vegetation が潜在自然植生。これは新しい緑環境をつくるための科学的な脚本、シナリオです。シナリオなしに永遠に幕の閉まらない命のドラマは展開出来ません。我々はこのように現場で徹底的に自然が発するかすかな情報、厳しい条件にどれだけ耐えているか。そしてその結果、例えば〈写真－31〉の潜在自然植生図で関東地方の海岸沿いの薄い緑のところは主にタブノキ、明るい緑の内陸部の大部分はシラカシ、アラカシ、ウラジロガシ。そして海抜 800 メートル近くになると寒い冬は落葉するミズナラ、ブナ林になる。水際は落葉樹のケヤキやクヌギ、ハンノキである。これは新しい森をつくるための緑の処方箋です。


Tab. 1. 首都圏におけるタブノキ林域常緑植物植栽可能種一覧（環境保全林形成のために）

潜在自然植生	イノデータブノキ群集およびホソバカナワラビースダジイ群集 Polysticho-Perseetum thunbergii and Arachniodo-Castanopsietum sieboldii
高木 （環境保全林、 保護林、並木 などの主木）	タブノキ *Persea thunbergii*, スダジイ *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*, ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum*, シロダモ *Neolitsea sericea*, カクレミノ *Dendropanax trifidus*, *サカキ *Cleyera japonica*, クスノキ *Cinnamomum camphora*, *オガタマノキ *Michelia compressa*, *クロガネモチ *Ilex rotunda*, *カナメモチ *Photinia glabra*, *ヤマモモ *Myrica rubra*, カゴノキ *Actinodaphne lanctfolia*, イヌマキ *Podocarpus macrophyllus*, **ヒメユズリハ *Daphniphyllum teijsmannii*, ホルトノキ *Elaeocarpus japonicus*, イスノキ *Distylium racemosum*
低木 （インド群落、 根木根じめ、 生垣など）	*ヤブツバキ *Camellia japonica*, ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum*, *サザンカ *Camellia sasanqua*, *ネズミモチ *Ligustrum japonicum*, *モチノキ *Ilex integra*, シロダモ *Neolitsea sericea*, イヌツゲ *Ilex crenata*, *トベラ *Pittosporum tobira*, **シャリンバイ *Rhaphiolepis umbellata*, マサキ *Euonymus japonicus*, **マルバグミ *Elaeagnus macrophylla*, *オオバイボク *Ligustrum ovalifolium*, *ツツジ類 *Rhododendron* ssp., *ジンチョウゲ *Daphne odora*, ヒラギモクセイ *Osmanthus fortunei*, タイミンタチバナ *Myrsine seguinii*, *イズセンリョウ *Maesa japonica*, *リンボク *Eurya emarginata*, *ハマヒサカキ *Prunus spinulosa*, *サンゴジュ *Viburnum awabuki*, ウバメガシ *Quercus phillyraeoides*, *ナワシログミ *Elaeagnus pungens*, **カゴノキ *Actinodaphne lanctfolia*, *センリョウ
木本植物 （シダ群落、 林床植被）	ベニシダ *Dryopteris erythrosora*, ヤマイタチシダ *Dryopteris bissetiana*, *カブダチジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus* var. *caespitosus*, *ナガバジャノヒゲ *Ophiopogon ohwii*, *オオバジャノヒゲ *Ophiopogon planiscapus*, **ヤブラン *Liriope platyphylla*, *ヤブコウジ *Ardisia japonica*, イタビカズラ *Ficus nipponica*, シュンラン *Cymbidium goeringii*, *テイカカズラ *Trachelospermum asiaticum* var. *intermedium*, キヅタ *Hedera rhombea*, オモト *Rohdea japonica*, ヤブソテツ *Cyrtomium fortunei*, タガネソウ *Carex siderosticta*, ヤマヤブソテツ *Cyrtomium fortunei* var. *chinicolum*, ツルマサキ *Euonymus fortunei* var. *radicans*, ノシラン *Ophiopogon jaburan*, フウトウカズラ *Piper kadzura*, 多くのシダ植物が生育可能（イノデ *Polystichum polyblepharum*, アスカイノデ *Polystichum polyblepharum* var. *fibrilloso-paleaceum*, イノデモドキ *Polystichum tagawanum*, リョウメンシダ *Arachniodes standishii*, フモトシダ *Microlepia marginata* など）

*一実季の美しいもの、**一樹肌を楽しめるもの、___（下線）－新緑紅葉を楽しめるもの

写真－32

どうか緑の環境をつくるために植木屋任せにしない、業者任せにしないでいただきたい。少なくとも科学的な脚本を持って、土地本来の主木群の三役、五役は皆さんに決めていただきます。〈写真－32〉潜在自然植生は「日本植生誌」全 10 巻で大まかにまとめています。例えば境界環境保全林をつくるための高木樹種には何が良いか。低木には何が良いか、この中から選んでいただければ間違いない。業者任せにしても無理です。大きな木を植えても、根群の不十分な成木はだめです。



写真－33
（根のない成木を不透水層の上に植えると頭が枯れていく）

〈写真－33〉　千葉県の砂防課長が、海岸沿いに宮脇昭の言ったタブノキを植えたら頭が枯れてきたと。よそから持ってきて植えて、何万円もかけた成木を、つっかえ棒で支えても、5 メートルぐらいの木で頭が枯れているのがありますね。頭が枯れたのは根の状態がおかしいのであって、抜いてみると根がないか、あるいはたまり水。空気は 1000 分の 400 の酸素があります。しかしたまり水には 1000 分の 4 しか酸素がありません。だから陸上の木の根が 70 時間以上たまり水に浸かると酸欠で根が腐ります。すると、残った根で吸った水分と、枝葉部から蒸散する水分のバランスが取れなければ死にますから、この木は生き延びる戦略として自分で頭を枯らしているわけです。頭が枯れているのが良くあります。何万円もかけて 5 メートルの成木を植えてもだんだん枯れて、極端に言えば 3 メートルになる。だったら 1 本 300 円から 500 円で、3 年たったら 3 メートルになる本物の根の充満したタブノキなどのポット苗を植えましょう。

今、国内では私の指導で、毎年 3000 万から 4000 万本のシイ、タブ、カシ類のポット苗をつくっています。3 万、5 万本くらいならいつでも手に入ります。植物は根で勝負。皆さんは足腰で勝負ですよ。歩く、歩く、歩くこと。

自然再生の事例と実績－横浜国立大学－



写真－34



写真－35



写真－36



写真－37

〈写真－34〉　これがタブノキの根群の充満したポット苗です。シイ、カシ類なども同様に根群の充満したポット苗を植えます。植える場所がないとは言わせません。3 本植えれば“森”5 本植えれば“森林”ではありませんか。〈写真－35〉横浜国大は例えば 1975～76 年ごろ保土ケ谷のゴルフ場跡に統合しました。だから草しかありません。ちょうど正門から事務局まで約 500 メートル、1.5 メートルの幅で 45 度の斜面に外国の牧草を吹きつけてあった。それが冬は枯れたり、たばこの火で燃えたりして困っていました。私はちょうど今から 20 数年前に緑環境の委員長をさせられました。そこで私は森をつくることを提案しました。文部省はそんな金は一銭もくれません。〈写真－36〉したがって教授が 3000 円、助教授が 2000 円、助手が 1000 円を出し合って、まず簡単な土留めをつくりました。横浜市は土が余っていると言うから、その表土をほっこらほっこらとかぶせました。ドイツのアウトバーンなんかは、土留めの柵が見えないほど表土をかぶせますが、我々は予算の関係でこのぐらい。

〈写真－37〉　そこに何でも植えれば良いのではなく、土地本来の潜在自然植生の主木群のシイ、タブ、カシ類とそれを支える亜高木のヤブツバキ、ネズミモチ、ヤマモモなど、根群の充満したポットに育てた幼木を、自然の森の掟に沿って混植・密植（2～3 本/m²）しました。イノキと、もう一つタブです。シイ、タブ、カシ類だけを覚えていただければ良い。



写真－38

〈写真－38〉　それが 3 年たったら 3m とこういう状態になるわけです。事務局長が「宮脇さんの木が育った」からと、つつじは文部省から予算をもらって植えた。化粧的な緑化には税金を使うわけです。こんなのは市民にやらせれば良い。まずは命を守る森にこそ税金や、なけなしの金を企業も使っていただきたい。なぜ本物と偽物の区別がつかないか。しかし道沿いの林緑には花木を一列植えます。これはマント群落とソデ群落と呼ばれエコロジカルにも必要です。

関東以西であれば、海岸沿いの塩水をかぶるところはトベラ、シャリンバイ、ウバメガシ、ハマヒサカキ、いくらでもあります。ちょっと内陸では冬の花ならカンツバキ、サザンカ、春の花ならクチナシ、ジンチョウゲ。南斜面で日の当たるところはサツキやツツジも良いです。それらを混ぜて植えます。市民や学生、社員は一年中花園の中を通って行きます。落ち葉が外へ出ないから管理費は要りません。落ち葉は分解されて再生産に使われる。これがエコロジカルな命の森づくりであります。よく見ていただきます。3 年たったら管理費は一切要りません。後は自然淘汰に任せます。



写真－39



写真－40

〈写真－39〉　同じところが 9 年たつとこういう状態になります。邪魔になれば横枝は切っても頭は切らない。伸びたいやつは伸ばさなければいけません。これが日本の教育の基本であります。後はついてくる。下にそろえるのではなく、いわゆる平等というのは上を伸ばせば下はついてくるわけです。私たちはまずトップになる木を植えます。後はついてきます。

〈写真－40〉　そして 12 年たてばこういう状態。今は 90 いくつ国立大学があります。また、世界中の大学でゴルフ場跡に統合して、20 年少々でこのような幅が 2 メートルから 3 メートル。キャンパスの周りが全部境界防災環境保全林として囲まれている大学はどこにもありません。今は私の記念碑まで学長はつくってくれています。そんなものは要りませんが、とにかくこの森は次の氷河期が来る 9000 年は残ります。本年（2008 年）5 月 18 日にトヨタの堤工場の周りに 5000 人 5 万本植樹祭を行なった際、「トヨタの森も残ります。」と言ったら、渡辺社長が「トヨタの森は 1 万年続く森をつくって下さい」と言っていました。　いずれにしましても後は管理費が要らない。横は切っても頭は切らない。このような森が出来る。これが命を守る都市の森：Urban forest アーバンフォレストであります。

自然再生の事例と実績－橿原バイパス－



写真－41



写真－42

〈写真－41〉　例えばこれは奈良県の橿原バイパス。住民の反対で 10 年間出来ませんでした。たまたま建設大学校で話した時に、当時の尾林さんという計画課長が「宮脇さん、協力して欲しい」と言った。住民が反対するというので小学校の校長に言ったら「喜んで協力しましょう」と言うので、1976 年 3 月 10 日今でも覚えています。父兄も含めて 1200 円で幅 1 メートルぐらいですが、ここに 1 万 5000 本のポット苗を植えました。新しいことをやると反対する人が 1 人、2 人はいる。なぜ土曜日の休みの日に子どもを使ってやるのかと、ここの体育の先生がまず反対しました。（笑）私はこういう反対をする人は逆に使う。こういう人は一部の思想的な方は別として、結構物分りが良い。単純でシンプルですから、「あなたがいくら体育をやっても、子供の肺が黒くなったらだめじゃないか」と言ったら「良く分かった」と言って、逆にいちばん本気でやってくれました。（笑）

〈写真－42〉　8 年後、このようにして植えた木が、真菅北小学校の 6 年生の女の子がお嫁に行って、子どもが出来て里帰りした時に、パパやママがあなたと同じ頃に植えた木がこうなったと言える。これがまさに命の教育。ふるさと愛、愛国心というのはこういうところから出てくるわけです。今日は国の方もいらっしゃっていますが、こういう現場から体を通して理解させるべきです。今まで反対していた親御さんも子どもは親の人質というか、子どもの優しさで結果、ハンコをついてくれて高速道路が出来て今 18 キロ続いています。邪魔でも横枝は切っ

ても頭は切らない。今、国際的に重要視されている生物的多様性。これが多様性であるということを知っていただきたいと思います。



写真－43

〈写真－43〉　これは５期やられた柿本奈良県知事が、「こんな良いことはやらないといけない」と、すぐに私が呼ばれまして、白河ダム沿いに 2000 人２万本植樹祭をやりました。当時の柿本知事は自治省出身の、人前で笑わない知事で評判だったのが、こんなうれしそうな顔をしているのは見たことがない。土木部長たちがまたやりましょうと言った。私は先見性と決断力、実行力、持続力のある知事、市長、代議士、企業のトップに正しく理解してもらい、子どもたちの未来のために、今すぐどこでも出来る命の森づくりを共に、毎年やっています。

自然再生の事例と実績－横浜市－



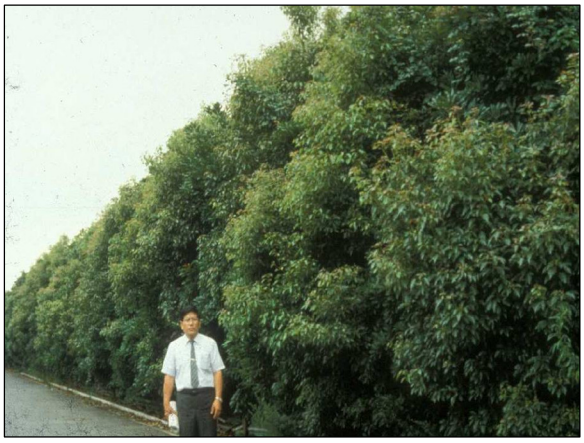
写真－44



写真－45

〈写真－44〉　行政の皆さんにお願いします。例えばこれは横浜市が北部下水処理場をつくるのに住民の反対でなかなか出来ませんでした。市長から何か良い方法はないかと。見ると建設廃材がいっぱいあるわけです。毒と分解困難なもの以外はすべて地球資源ですから幅６メートル、深さ１メートルの穴を掘らせて土と混ぜながら入れマウンドをつくりました。マウンドは

水はけ・aeration が大事。3 メートルのマウンドを築き、ポット苗を植え敷き藁をしました。〈写真－45〉　同じところが 1 年たったらこういう状態、98％の活着率。アメリカ・ジョージア大学のＥ・Ｏ・ボックス教授も学びに来ています。右後ろの大きな木は頭が枯れています。これはもらってきたと。どうせ税金で買ったのでしょうが頭が枯れている。（笑）



写真－46



写真－47

〈写真－46〉〈写真－47〉これがシイ、タブノキ、カシ類の常緑の森です。同じものが 5 年たったら 4 メートル、9 年たったら 8 メートル。ここは鶴見の海岸です。いつ津波が来るか判らない。したがって今まで下水処理場をつくるのに反対していた住民の人が、結局下水処理場をつくり、宮脇方式、エコロジカルの森をつくった。深根性、直根性で地下に根群が 3 メートルも 5 メートルも入っていますから、台風、津波にびくともしない。もう津波が来ても、高潮も大丈夫だと喜んでいます。

自然再生の事例と実績－本田技研－



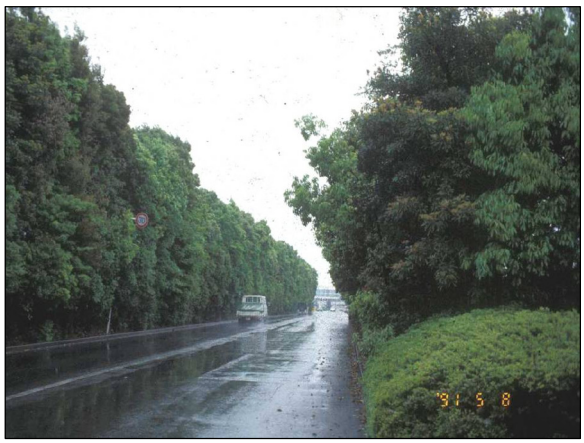
写真－48

〈写真－48〉　これが本田技研がかつてやられた状態であります。全工場、研究所で毎年管理費が 2 億 2000 万円。ご覧のように植木屋さんは、1 年保証で 13 カ月目くらいから、頭から枯

れていますから、永久就職であります。企業は永久に寄生虫を養っている。そしてどんなに芝生を丁寧に刈っても冬はご覧のように枯れてしまい、音も臭いもガスも通してしまう。皆さんはこのつっかえ棒がなければ、木を植えても育たないと思っておられれば、それはいかに偽物にごまかされているか。私はこういうのを見ると、あの寂しい墓場の十字架か卒塔婆にしか見えません。



写真－49



写真－50

〈写真－49〉　本社で講演会、さらに現地の植生調査を続けて、その結果を基本にエコロジカルな産業立地の境界環境防災林を河島社長や、今日いらっしゃる西田副社長のトップダウンでやらせていただいた。幅 1 メートルでもすべての工場、研究所の周りにエコロジカルな森をつくりました。〈写真－50〉同じところが 9 年経つとこういう状態。横枝は切っても頭は切らない。車がカーブして通るところは低木を手前に植えておけば良いわけです。

自然再生の必要性とその効果－神戸－

森はなぜ町の中や工場の周りに必要であるか。1995 年 1 月 17 日。私はボルネオの熱帯雨林の調査に行っていました。雨の中を山から下りたら CNN テレビの速報番組で、西日本で大地震が起きたと言っている。見れば広範囲に火がいくつも出ている。これは大変だと。私は、皆さんと一緒に現地で調べて植えた木は台風、地震にもびくともしないと公言しています。科学者は今でもそうですが、自分の発言、行動には責任を持ちます、持たなければいけません。この地震でもし全部だめなら責任問題とすぐ帰った。



写真－51



写真－52

〈写真－51〉　ところがなかなか被災地に入れなかった。やっと関空からヘリコプターで入って、ちょうど液化現象でひどい被害の神戸湾沿いを調べました。空襲の後と同じ。〈写真－52〉ところが 1 つ小さなポケット公園があって、土地本来の常緑の覚えていますね、シイ、タブ、カシ類が植わったところは一時的な逃げ場所、逃げ道になっていました。葉は焼けているけれど生きているから 9 月の調査では元に戻っていました。



写真－53



写真－54



写真－55

〈写真－53〉〈写真－54〉　ちょうど 2 週間後の写真ですけれども偶然撮れた。この娘さんはお母さん、ご主人が奥さんの骨を探しているわけです。死んだ材料だけで出来た都市や産業立地が、今晩襲うかも知れない地震に対して、皆さんは命を賭けてあがなわなければいけない不幸なこの事実を見ていただきます。〈写真－55〉何百億円をかけたご自慢の高速道路も新幹線もこういう状態です。ところが皆さんの先達が植えて創った鎮守の森の木は、私たちが現地調査した結果では 1 本も枯れていない、倒れていない。これが日本人の英知であったことを知っていただきたい。



写真－56



写真－57



写真－58



写真－59

〈写真－56〉　長田区の周りですべてだめでも 1 列、アラカシのカシの木があって、1.2 メートルの小道があれば、そこで火が止まっているではございませんか。〈写真－57〉この程度の樹林帯で囲まれた空き地があれば、一時的な応急住宅も出来ています。〈写真－58〉神戸から約 40 キロの姫路に新日鐵の広畑製鉄所があります。全製鉄所の境界環境保全林を 1970 年からやりましたが昭和 48 年、当時はポット苗がないから土地本来のシイ、カシ類のドングリを市民と一緒に拾いまして、製鉄所の敷地の周りに、境界環境保全林形成を目指して全部植えました。〈写真－59〉10 年たてばこういう状態になっています。もしあの不幸な地震がこの姫路まで襲っていても、幅 3 メートル、5 メートルでサイトの周り 5 キロを囲んでいる、この境界環境保全林は何千の人の命を守ったはずであります。



写真－60



写真－61



写真－62

〈写真－60〉〈写真－61〉　直下地震でネコも這い出せない状態。ところが家のすぐそばにカシの木を植えておけば、それに屋根が引っかかり、すき間が出来てそこから逃げ出すことが出来たはずであります。〈写真－62〉今やっと一部ですが、小学校の校長引率で正課の授業としてご覧のようにエコロジカルな植樹をやっています。もし倒れた高速の高架道沿いに、地震の 10 年前に子どもたちに、この小さな樹高 30cm のポット苗を植えさせていれば、10 年で 10 メートルの森の帯が出来ていました。そうしますと橋が倒れても森の上に軟着陸するから、上のドライバーは命を落とさずにすんだはずです。我々は橋も工場も道路も自動車も必要かも知れない。しかし、同時に人間の命の共生者としての生きた緑の構築材料を、しっかりしたエコロジカルな科学的な現地調査に基づいて積極的に植えていただくことを提案します。

関東大震災の教訓



写真－63



写真－64



写真－65

〈写真－63〉 〈写真－64〉　では、80 年前、関東大震災の教訓はどう生かされているか。残念ながら 14 万人の人が死んだと言われています。ところが国会図書館にある当時の土木学会誌を私たちは調べました。ご覧のように本所陸軍被服廠跡、いまの相撲場の近くですが、そこには 4 万人が逃げ込んで、わずか 1 時間で 3 万 8000 人が亡くなっているわけです。〈写真－65〉ところが同じように 2 キロ離れた深川岩崎別邸、今の清澄公園には 2 万人が逃げ込んで誰も死んでいないわけです。どういう差があったか。

一方は板塀で囲まれていました。そしてこの清澄庭園は立体的な緑の壁、幅 13m のシイ、タブ、カシの森で囲まれていた。ここに逃げ込んだ人は誰も死んでいないのです。こういう冷厳な事実があるにもかかわらず、なぜ森をつくらないか。何百万台の消防車を集めても、道路が壊れたら役には立たないのです。

自然再生の事例と実績－広島－



写真－66

〈写真－66〉　そろそろ時間がきましたが、例えばこれは広島の美鈴が丘の住宅団地をつくる時に我々が協力を依頼されました。花崗岩の風化した 45 度の斜面。研究者はエゴイストですから、こういう誰にも出来ないようなところに森をつくって国際会議で発表したいわけです。ここに森をつくろうとしたら、現場の所長は絶対反対。そんなことは出来はしないと言う。したがってたまたま三井不動産の工事だったから、私は日本橋まで行きまして、当時ご存命だった江戸会長に何とかここに木を植えさせていただきたいと言った。彼は黙って聞いてくれていましたが、「宮脇さんがそんなに言うならおれが責任を持つから植えてくれ」と言うので、我々は花崗岩の岩盤の中に穴を掘って、エコロジカル、宮脇方式で植えました。



写真－67



写真－68

〈写真－67〉　同じところが 14 年経てば、こういう本物の斜面保全林になるわけです。これがいわゆる国際的に評価されている命と心と文化と遺伝子を守る、いわゆる宮脇方式とも言われる森づくりであります。〈写真－68〉そして森の中を調べますと高木は亜高木、低木、下草の立体的な緑の壁が出来ています。この木々は生きていますから、これから 200 年、300 年後には枯れるかも知れない。しかし枯れる木を待っている後継樹が下にいっぱい生息している多層群落の森ですから、個体の交代はあるが、森のシステムとしては次の氷河期が来るであろう 9000 年は持つような、そういう本物の森をぜひ皆さんの足元から創っていただきたい。



写真－69



写真－70



写真－71



写真－72



写真－73

〈写真－69〉〈写真－70〉　横須賀市内の県立久里浜高等学校をつくる場合にも、こういう岩盤を切った後でも我々はここに表土を入れまして、エコロジカルな森の再生を目指して木を植えてもらいました。〈写真－71〉2 年経てば地上部の枝葉が 2 メートル、根が 2 メートル。〈写真－72〉3 年経てば地上部の枝葉が 3 メートル、根は 4 メートル生えています。岩盤のすき間、酸素を通って根が岩盤を抱くような状態。〈写真－73〉そして地上部も 3 年経てば 3 メートル。ここはしょっちゅう台風による崖崩れで人が死んでいた。今はびくともしない。こういう命を守る本物の森が出来るわけです。

なぜ本物にこだわるか



写真－74



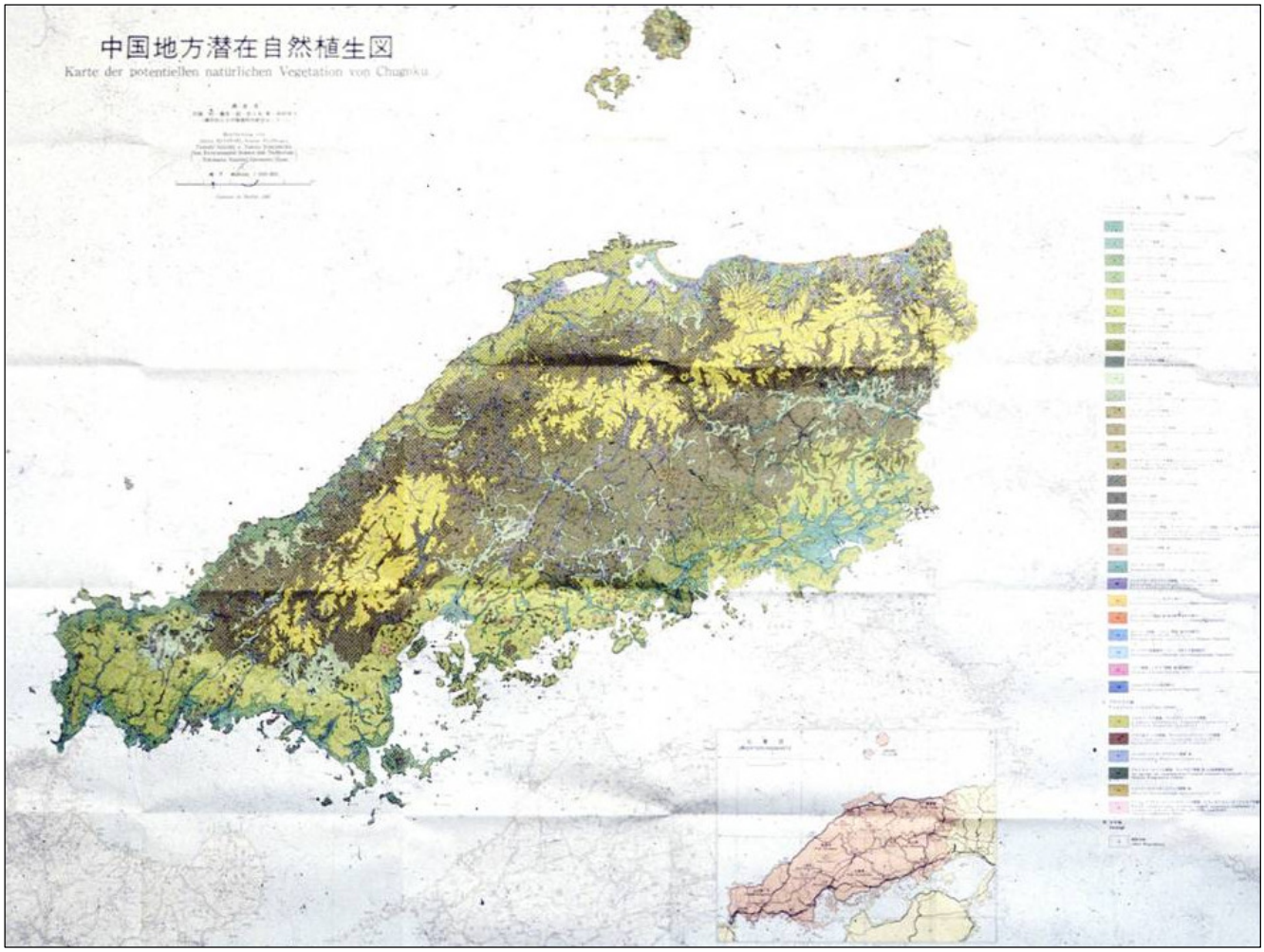
写真－75

〈写真－74〉〈写真－75〉　なぜ本物にこだわるか。私の郷里の岡山県はマツがいっぱいあった。ところが最近、たまに墓参りに帰ると風か吹けば木が倒れる。瀬戸内海沿いでは毎年山火事が起きています。皆マツ、マツ、マツが燃えています。どうしてか。



写真－76

〈写真－76〉岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県、我々が調べたらこれが中国地方の現存植生図。赤いのは全部マツです。では本来マツはどれだけあったか。



写真－77

〈写真－77〉　同じ凡例で描いた潜在自然植生図。ほとんど 50 万分の 1 の潜在自然植生図ではマツは出てきません。マツ、スギ、ヒノキ、カラマツなどの針葉樹は、生物の進化から言うと 3 億年前には石炭、石油の元となるシダ時代であった。そしてその後、裸子植物のイチョウやマツ、スギ、ヒノキの時代。今は広葉樹の時代です。シイ、タブ、カシ類などの暖地の常緑広葉樹。山の上はブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹。したがってマツやスギ、ヒノキは生育条件の恵まれたところでは広葉樹との競争に負けて、尾根筋や岩場などの少し厳しい立地に局地的自生していました。たまたまそれが金になるというので、全国的に植えられた。これが同じ宮島、広島県、島根県。緑は緑でも過去の植物の針葉樹がその潜在自生地を 250 倍以上に増やしている。自然が逆立ちする状態だから、必ず来る自然の揺り戻しに大きな被害を受けている。



写真－78



写真－79

〈写真－78〉　松食い虫が来れば全部こういう全滅状態になります。

そこで部分的、一面的な対策は、毒のやり方が少なかったと、またヘリコプターでさらに毒性の強いスミチオンなんかを撒きますと、一時的には松食い虫は抑えられるが、同じ生きた細胞から出来ている住民に影響を与えかねません。毒と火をもって自然を制することが出来ないということを、徹底的に私はドイツで学びました。ではどうしたら良いか。

〈写真－79〉　良く見ていただきたい。松食い虫でマツが枯れた後に土地本来のシイ、タブ、カシ類が出ているではないですか。ご存知のようにもうこのマツが高く売れる時代は終わったのですから、なぜ本物を植えないか。ドイツではやはり全部焼けたから戦後、針葉樹のドイツトウヒなどを植えさせました。ところが管理してようやく成木になったと思ったら、スカンジナビア半島などから安い木材が入ってきて、日本と同じように切れば赤字、出せば赤字。しかも根が浅いから災害に弱い。その時ドイツ政府が決めたのは、潜在自然植生の広葉樹を中心にするということ。もちろんヨーロッパは寒いところですから落葉広葉樹のミズナラ、ブナ類など。

日本でも植樹と言うが、例えば神奈川県の丹沢の場合でも、やっと県が住民から水源税を取っても、既存のスギ、ヒノキの人工造林の管理費に殆ど使う。また植えるのは 97％がスギ、ヒノキ、マツ。ちょっとおかしいではないかとお話をしてやっと 3 割、30％は広葉樹を植えることになった。それぐらいまだ分かっていない。他県ではさらにひどい。



写真－80



写真－81

そして今、もっとも必要なことは、バーチャルな世界で育っている子どもたちのために、木を植えさせながら、生（なま）のいのちの尊さ、はかなさ、素晴らしさを、習い性となるまで体に刷り込ませることです。〈写真－80〉出雲の西尾市長は文部省で「日本植生誌」の現地調査、研究、出版の時お世話になった方でありますが、宮脇がやるならというので教育長に命じまして、19 の小中学校で 2000 人の子どもたちに毎年、正課の授業として振り替え授業で、このように国交省がやっている放水路沿いに森づくりや、市有地にエコロジカルな植樹をやっています。〈写真－81〉　これは私が植え方を説明して、小学校 4 年生の子も 1 時間で 10 本以上植えてくれます。



写真－82



写真－83

〈写真－82〉　そして中学生も一生懸命。〈写真－83〉　最初の 1 本はもたもたしているが後は夢中で植えます。そして小学校 4 年生の子が毎年植えて中学 2 年生になった時先生と一緒にきたら、「私が植えた木がこんなになっている」。これこそまさにいのちの教育。そしてふるさと愛。こういう生（なま）のいのちの教育。トータルとして防災、環境保全林として、斜面保護、防災林、水源林としていのちを守る、具体活動がなぜ全国的に出来ないか。



写真－84



写真－85

〈写真－84〉　火山の噴火で大被害を受けた伊豆の三宅島でも、植林したスギ林は全滅しています。
〈写真－85〉　しかし、同じ煙の影響を受けても、タブ林など昔からの土地本来の森は再生し大丈夫。



写真－86



写真－87

〈写真－86〉　横浜のみなとみらいで、NPO の皆さんが雨の日に植えてくれて、3 年経つと３ｍとなるわけです。〈写真－87〉　植えなければゼロでございます。



写真－88



写真－89

〈写真－88〉〈写真－89〉　JR 東日本でもご覧のように安中榛名で植えていただいている。3000 人 3 万本植樹祭。皆身銭を切って来ているわけです。



写真－90

〈写真－90〉　そしてこれは東京都が伊豆大島の滑走路を延ばそうとした時、愛宕山付近の一部の斜面を削る計画に、自然保護団体が大反対をしました。離島港湾局の幹部の方などが来まして、何か良い方法はないかと。いちばん良いのは残すことだ。しかし、延ばすことは必要である。だったら元に戻すんだ。これが大事なところ。死んだ材料では元に戻すのが精一杯。生きた緑の材料は、今の松枯れがあるところを、より土地本来の本物の森に再生することが出来る。皆さんが本気でやるなら私も体を張って、潜在自然植生にもとづく本物の森づくりに協力し、反対派の皆さんにも対応しましょう。「出来るか」と言うから、「あんたたちが本気でやれば出来る」。



写真－91



写真－92

〈写真－91〉〈写真－92〉　したがってそのためには業者任せではいけない。都庁の担当課長や係長を皆引っ張り出しまして、種を拾って 30 時間水につけて、中の虫を窒息させて植えれば、役人が植えても 80％は芽が出る。（笑）そしてここ伊豆の大島は島ですから遺伝子の問題がありますので、苗を外部から持ち込まないでやる必要があります。

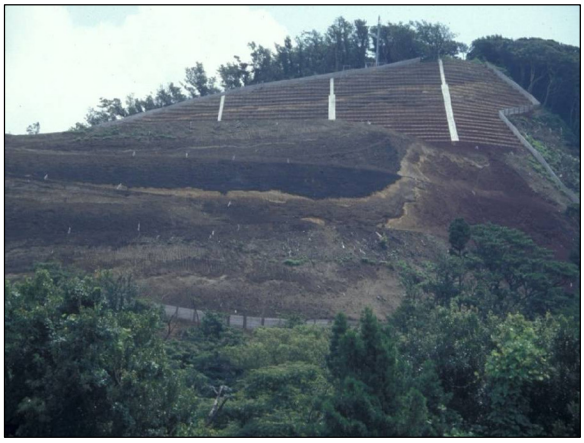


写真－93

〈写真－93〉　そこで、大島の鎮守の森のタブノキなどの成木から種子を集め、39 万本のポット苗をつくりました。



写真－94



写真－95

〈写真－94〉　この山の斜面を削って、露出している溶岩上に植えるわけです。審議官も部長も課長も真剣な顔で「先生、本当に出来なかったら石原慎太郎知事に悪い」と。「何を言うか。植えた植物は命を賭けているじゃないか。おれも本気でやるから、皆さんも職を賭けてやれ」と。どのようにやったか見てください。

〈写真－95〉　まず土が動く限り根が張りませんから、間伐材などで簡単に土留めをしまして、当時は青山副知事の時代でしたが、副知事以下、東海汽船は 450 人しか乗れません。



写真－96



写真－97

〈写真－96〉 〈写真－97〉　夜の 11 時半に東京港を出航し、翌朝の 5 時に着いて、1 人が 20 本以上をちゃんと植えて、また来てまた帰る。それを交代しながら土日、翌土日と、1 カ月で 1 万 2000 人、30 万本を植えました。



写真－98



写真－99

〈写真－98〉　1 年半たったら、1 mに生育してこういう状態であります。〈写真－99〉　そして、3 年たったらこういう状態です。後は管理費も何も要りません。自然の管理にまかせます。伊豆の大島空港に西から着陸する寸前に、ぜひ右側を見ていただきます。



写真－100



写真－101



写真－102

〈写真－100〉〈写真－101〉〈写真－102〉　伊豆大島は、火山、ツバキなどの観光が主な産業。人が来なければジェット機が飛来しても意味がない。私は本州の人に植えてもらった。ところが、島の住民の皆さんもぜひやりたいと、一緒に植えてくれました。



写真－103



写真－104



写真－105

〈写真－103〉〈写真－104〉〈写真－105〉　JR 北海道では坂本会長以下、社員、労組の皆さんが大沼で、北海道の潜在自然植生の主木のミズナラのポット苗を、道内各地、全国の皆さんが身銭を切って、列車で毎年来てもらって、10 万鉢のポット苗をつくった。JR マンがやってもご覧のように見事に育つ。ドイツの学者がこの間も見学にきていました。

結び

クレメンツの遷移説によると、人間活動によって破壊された裸地に、土地本来の森が再生するには 200 年から 300 年かかる。エコロジカルな方法で植えると 15 年から 25 年で再生すると国際会議で発表したら、「宮脇の方法では 8 年から 10 年で限りなく自然に近い森ができる」と皆さんに言われました。国内外で 1600 カ所以上。この後、実は東南アジア、ボルネオ、アマゾン、中国、アフリカのケニアなどいろいろお見せしたいのですが、今日の時間が来ましたのでまた何か機会がありましたら、本田のふるさとの森のノウハウが、今世界でどのようにやられているかお話いたします。

そして最後にお願いしたいことは、木を植えるのは社会貢献なんていい加減なことを言わないで下さい。あなたが、あなたの愛する人が、家族が、会社が、地域が、人類が生き延びるために多少金がどうであろうとも、時には落ち葉が落ちようとも、ぜひ緑の森の寄生虫の立場の我々人類が、未来を間違いなく生き延びるために、足元から本物の命の森をつくっていただきたい。邪魔になれば処理すれば良いのです。また植えれば。小さな空き地にでも植えながら考える。もう議論する時代は終わりました。まず植えながら未来へ向かって新しい命の発展を期待します。ご清聴下さいましてありがとうございました。（拍手）

質疑

司会　宮脇先生、大変興味深いお話をありがとうございました。それでは多少時間がございますので、何かご質問のある方は挙手でお知らせ下さい。マイクをお持ちいたします。

宮脇　研究者はエゴイストですから話しただけでは自分の時間が損になります。おまえの言ったことはここが間違っている、あるいはこういう方法があるということがありましたら、ぜ

ひ教えていただきたいと思います。厳しい批判、ご教示をお願いします。

下川　私は法政大学の名誉教授の下川と申します。私は先生とは畑が全然違って経営学です。今日お話に出なかったのですが、アマゾンの熱帯雨林ではとんでもない破壊が進んでいるわけです。先生は当然そういうところにも足を踏み入れて、考え方をもっと改めるようにと言われておられると思いますが、同時に、今日お話にあった命の森を実際につくっていく、とにかく小さなところからでも始めようと言うのと、どのように調和させていくべきとお考えでしょうか。

宮脇　そこを話したくて、スライドもブラジルアマゾンのベレンを中心にして 91 年から三菱商事の協力を得まして 15 年間、毎年行って調べて立派な森になっている。それをお見せしたかったのですが、本田財団で 1 時間でということだった。（笑）スライドをパッパッと出していただけますか。すみませんが、せっかくですから。

〔スライド〕



写真－106



写真－107



写真－108



写真－109

〈写真－106〉〈写真－107〉〈写真－108〉〈写真－109〉　ここはボルネオですが、エコロジカルに厳密な意味での原生林は全くありません。まず現地植生調査をして主な樹種、フタバガキ科の超高木の種を拾い、それを集めて植えますがなかなか芽が出ない。やっと根が出る。

根が出たのをポットに入れて、ボルネオでは多様性を維持するために 201 種類、40 万本のポット苗をつくりました。



写真－110



写真－111

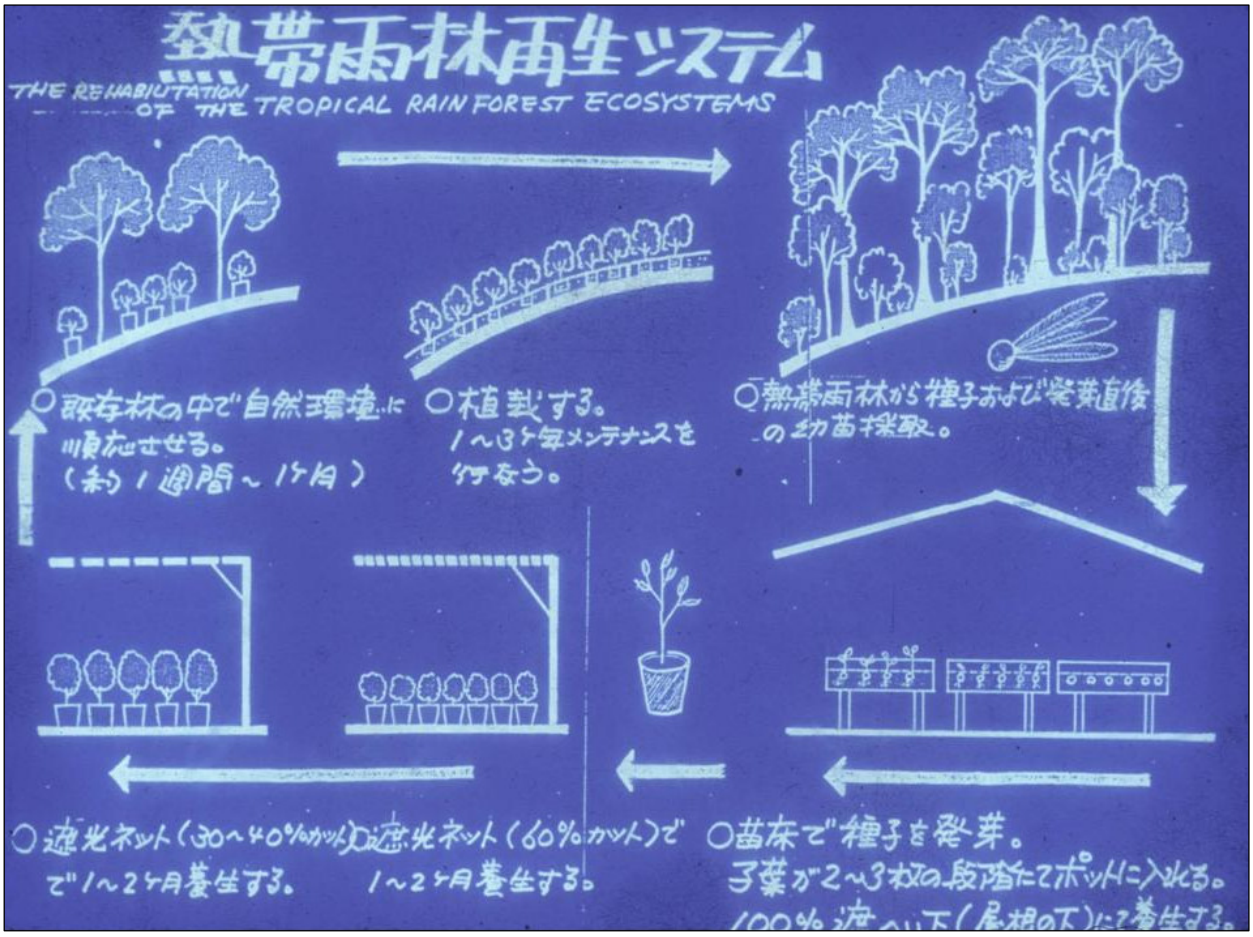


写真－112



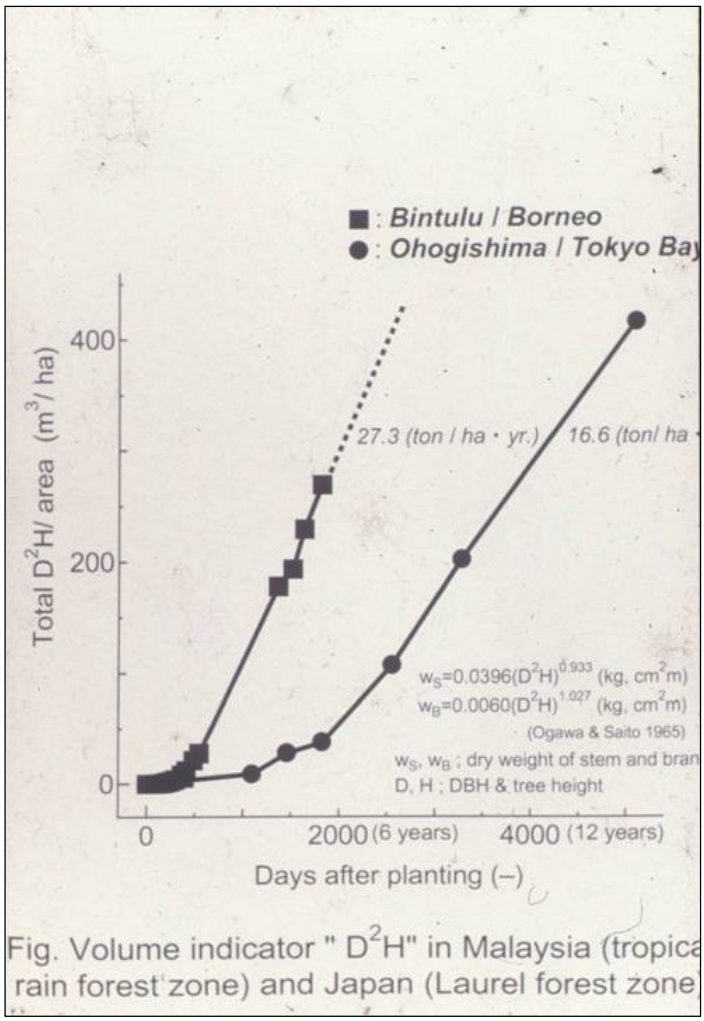
写真－113

〈写真－110〉〈写真－111〉そして焼畑跡のこういう荒れ地で、この草を捨てない、焼かない。地球資源として土の中に混ぜ全部入れまして、第 1 回の植樹祭は 1991 年 7 月 10 日に 2000 人で手で掘るから大変です。2 万 6 千本しか植えられない。〈写真－112〉〈写真－113〉植えた直後とそれが 5 年たてば 7 メートル、そして 15 年で 20 メートル、世界で初めての、オーストラリアのユーカリやアメリカのマツなどの外来種でなく、土地本来の Native forests by native trees でこの森が出来ている。



写真－114

〈写真－114〉これが、残存自然林で種子を拾い集め、ポット苗をつくり、裸地や荒廃地に植樹して、土地本来の森がどのように再生するかの熱帯雨林再生システムです。



写真－115

〈写真－115〉　カーボンの吸収・固定機能を国際会議で発表した例ですが、ちょっと少なめに見ています。いろいろな計算法がありますが、木材でありますと、大体ビンツル（マレーシア）では年間 44.4 トンぐらい。扇島でやった例では 27～30 トンぐらいであります。



写真－116

〈写真－116〉2006 年には、マレーシア国立農科大学（ＵＰＭ）からも、名誉学長である国王からこのように名誉林学博士号を日本人初としていただきました。



写真－117



写真－118

〈写真－117〉　これがアマゾンです。これは 92 年 9 月 20 日。毎年植生調査・植樹祭を行なってきましたが、年間の乾期と雨期の水位が大きく、雨期には水に浸かったような状態。アマゾンにもほとんど原生林はありません。私もさんざんあちこち調べた。〈写真－118〉やっと見つけた原生林に近いもの。健全な生物社会とは老大木から若木まで、いろいろな種類のいろいろな生き物が、いがみ合いながらも少し我慢して共生。これがいちばん健全な状態。生物多様性 biodiversity が重要。多分、人間社会も。



写真－119

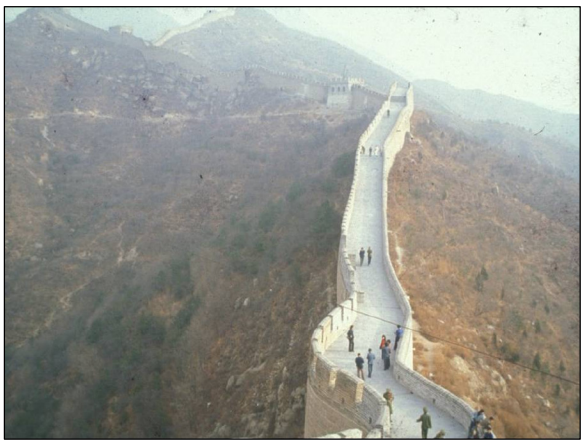


写真－120



写真－121

〈写真－119〉どんなアマゾンの森も、焼けば一晩でこういう状態になる。〈写真－120〉そこで我々は 1991 年から毎年、今では宮脇 X プロジェクトと名付け、子どもたちと一緒になってこのように植えています。土地本来の潜在自然植生はビローラーなどが主木です。主木群を中心に出来るだけ多くの種類のポット苗を、混植・密植します。子供たちが植えても 15 年で 20m。こういう森をどんどんとつくっているわけです。〈写真－121〉



写真－122



写真－123

〈写真－122〉〈写真－123〉　中国の荒廃している万里長城付近でも、土地本来の森づくりを行なっています。これはイオン環境財団と北京人民政府が一緒にやっている。中国側からもアジア人で初めて国際生態学会長になった宮脇のエコロジー方式でと。私達は現地植生調査を行い、モウコナラが主木であると決めました。第 1 回の植樹祭の前夜、私は北京市長に招かれて夕食をご一緒して、彼と少し親しくなりました。「時に先生、日本からの植樹ツアーはあまり来て欲しくない」「えっ？」と言ったら、「3 年たったら看板とつっかえ棒しか残りません。我々は黄砂のすごさを知っています」と。私は「黄砂を防ぎ、水をため、浄化する、本物の森づくりを私達は出来る。おれはそのためにきているのだ。木の種類の選択は私が責任を持つ」「何ですか」と言うから「ミズナラの原種、Quercus mongolica、モウコナラ」と言いました。

　ところが周りにいた林業局長や都市緑化局長は「そんな木はとうの昔に消えてなくなっている。あるのはポプラとニセアカシアとヤナギとハンノキだけ」。こういうのはパイオニア（先駆的植物）で fast growing 早く育つがすぐだめになる。



写真－124

〈写真－124〉それで私はこれが本物だと調査確認した上で、野越え、山越え、30 万粒から 40 万粒のモウコナラのドングリを集め、このようなポット苗をつくりました。



写真－125



写真－126

〈写真－125〉　なぜ本物にこだわるか見ていただきます。地上部が 30 センチ、根群は 1 メートルあります。だから裸苗では無理です。〈写真－126〉しかし根群の充満したポット苗は一度植えたらどんな台風が来てもびくともしない。乾燥にも耐える。これが本物です。スギやヒノキやマツ、ポプラやニセアカシアは根が浅い。どこに植えてもすぐ付くがすぐだめになる。本物とは厳しい条件にも耐え、長持ちするものです。



写真－127



写真－128



写真－129



写真－130



写真－131

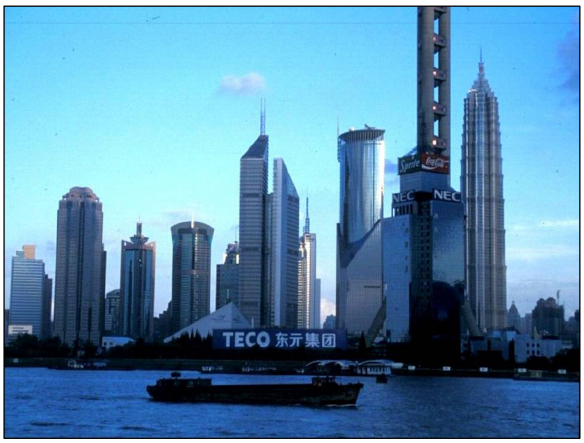
〈写真－127〉〈写真－128〉〈写真－129〉〈写真－130〉　だから中国でもポット苗をつくりまして、毎年日本から身銭を切って、皆さんが木を植えに来ているわけです。3 年間で 3900 人。ご覧のように日本から中国からも来まして、私が植え方を説明して中日一緒になって。東京から来た若い女性にレポーターが聞いていました。「何で身銭を切って中国まで来て、汗をかいてまで大変な作業をやって木を植えるのか」。〈写真－131〉今でも覚えていますが、彼女たちはにっこり笑いながら「一生にいっぺんぐらいは良いことをしてみたかったのです。こ

れで私も少し落ち着きました」。この物言わぬ市民の皆さんがこれほど物余りの時代でありながら、特に女性は生物的な本能で何となく未来に対して不安がある。あるいは子育てをしているような若い人まで、そういう方が身銭を切って、国内はもちろん中国にも、ブラジルアマゾンにも、ボルネオにも、今度はタスマニヤ、アフリカのケニアまで来てくれるわけです。
企業や行政の皆さん。大きな声では物言わぬ市民の皆さんの未来のために、市民と協働で、未来志向のいのちを守り、持続的に経済と共生する、本物の森づくりの舞台監督になって頑張って下さい。



写真－132

そういう状態で中国側から、不可能と言われたモウコナラはどうですか。〈写真－132〉不可能と言われた万里長城付近でも、主木のモウコナラは５年たったら３ｍとこうなっているわけです。これが本物の森づくり。



写真－133



写真－134



写真－135

〈写真－133〉　今最も発展しているのは上海の浦東（プートン）地域。90 年代からハイテクのメッカにしています。上海市長が、我々が当時の文部省の海外調査費で、長江沿いで上海から南京の奥地まで植生調査をしていましたから、「ぜひここで日本で行なっているエコロジカルな森をつくって欲しい」と。ところがここにはドングリがない。120km 南の寧波（ニンポー）に雲林禅寺という 1200 年前に出来た禅寺があります。道元禅師が学んだところです。〈写真－134〉〈写真－135〉そこには日本の鎮守の森のような森が唯一残っています。そこで我々は何が主木群であるかを調べました。　そして日本のシイ、タブ、カシに似たものですが、その主木群のドングリを拾って、19 万鉢のポット苗をつくりました。そして 2000 年 6 月には第 1 回の植樹祭をやりました。



写真－136



写真－137

〈写真－136〉　宮脇方式と書いてあるから、私は「宮脇を消して欲しい」と言うと副市長が「消せません」「えっ？」と言ったら、「中国でも偽物の植樹祭は非常に多い。偽物の植樹祭には市長も、日本の総領事も呼べないから、どうしても固有名詞を付けさせて下さい」。どうか皆さん、偽物はやめた方が良いのですよ。

新聞広告などに、うちも木を植えてとかいろいろ書いているところがあるけれど、何の木を植えて今どうなっているやら。やはり結果主義。



写真－138



写真－139

〈写真－137〉〈写真－138〉〈写真－139〉三菱商事と日系企業の皆さん、日本、中国の小中学生も 1200 人が 1 万 5000 本を植え、藁を敷きました。皆さん、木を植えた後の泥だらけになりながら、素晴らしい笑顔を見ていただきたい。子どもたちの未来のために今すぐどこでも誰でも出来ること、それは命の森をつくることです。５年で４メートルになりました。



写真－140



写真－141



写真－142

〈写真－140〉　北京と上海で行なったので、青島市長がぜひ協力して欲しいというので、こ

こは石灰岩でほとんど木も森もないわけです。労山（ロウサン）という自然保護地区で 39 万個の土地本来のリョドウナラなどのドングリを拾って、市長以下行政、市民、子供たちの皆さんと一緒に植えました。〈写真－141〉〈写真－142〉　こちらは青銀高速道路沿いに市長、副市長以下 2000 人で 2 万 5000 本植えました。何と中国は怖い。軍隊まで動員しているのです。日本の自衛隊は事故が起きなければ出てこない。（笑）海軍も陸軍も協力して、本当にこれが今の中国の状態。我々も頑張らなければ、10 年たったら戦争しなくても呑まれてしまいそうです。



写真－143



写真－144

そしてワンガリ・マータイさんが 2004 年に来られまして、毎日新聞で対談した時に、「実は宮脇さんが 3000 万本木を植えたというので、ぜひ聞きたい。私は、グリーン・ベルト・ムーブメント運動を起こしノーベル賞をもらったけれど、専門が違うから、農家のおばさんの言う木を植えたから必ずしも成功していない。あなたが日本でやったノウハウを、ケニアには７つ山があるから、一つ成功させたら、後は私がアフリカ中にやるから」と依頼されたので、今までに４回行って植生を調べ、市民、行政とすでに２回植樹祭をケニアで行なっています。来年（2009 年）４月にまた木を植えに行きます。

〈写真－143〉〈写真－144〉　現地植生調査をしましたが、ほとんど砂漠化しています。イギリスの植民地時代に、自然林はほとんど切って、ユーカリなんかを植えているわけです。そこで何が本物かを徹底的にこのように現地植生調査をしました。



写真－145



写真－146

〈写真－145〉〈写真－146〉　その調査結果に基づいて、地域の皆さんと赤土で泥だらけになりながら植えました。不思議です。皆さん、幸福は何であるか。泥だらけで今晩食べるご飯もないような皆が、一生懸命、日本の宮村　智大使も一緒に植えてくれました。1 人が 20 本以上を植えた後にちょっと天気になったら、みんな歌を唄ったり踊りながら“ベリーハッピー”なんですよ。その後、時には酋長の家へ連れて行かれて、泥だらけのサツマイモを食べながら。本当に、衣食住の満ち足りた中で、まだ不満ばかり言う日本の姿と、どちらが幸福か。幸福は木を植えながらやっぱり自分で創るべきです。

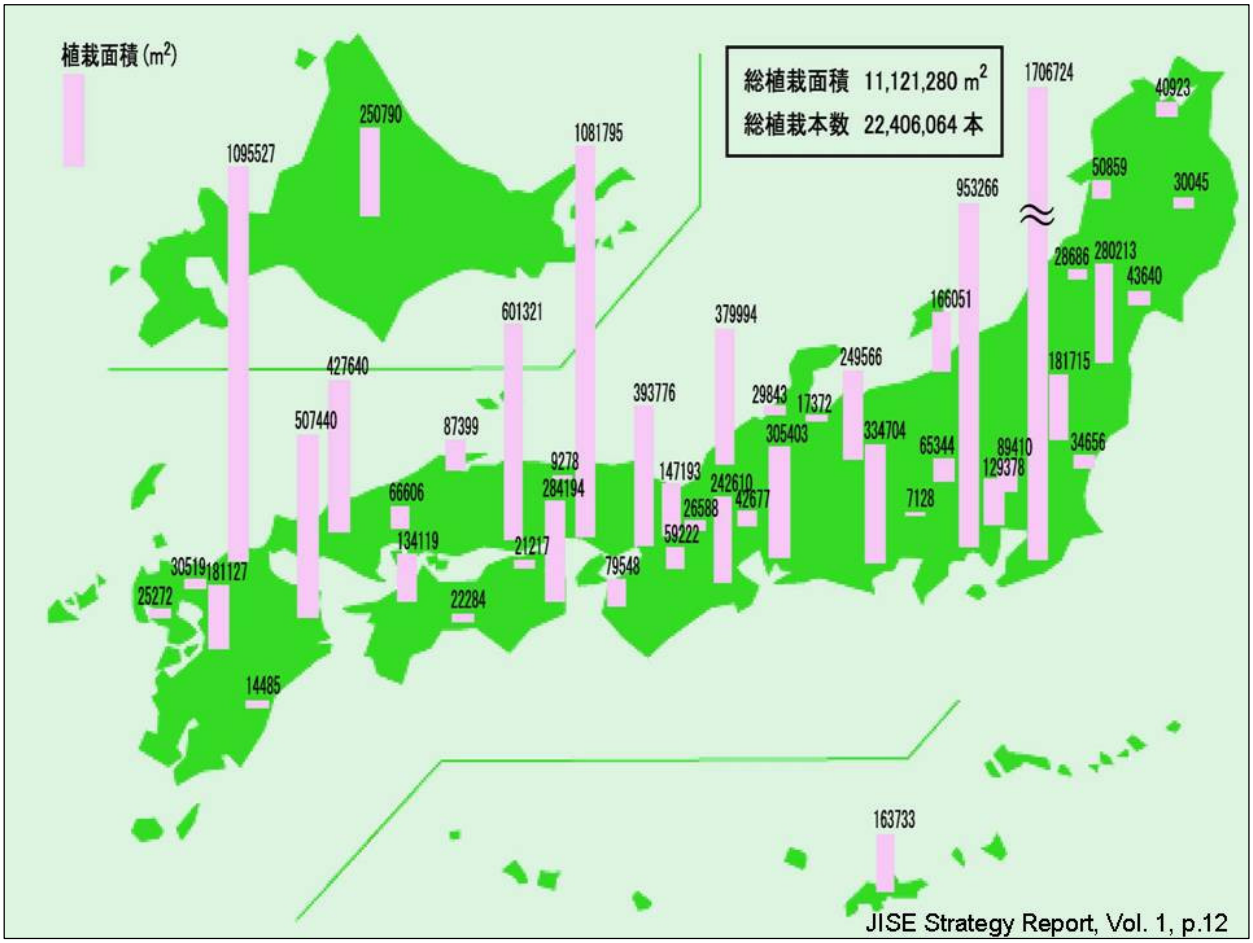


写真－147



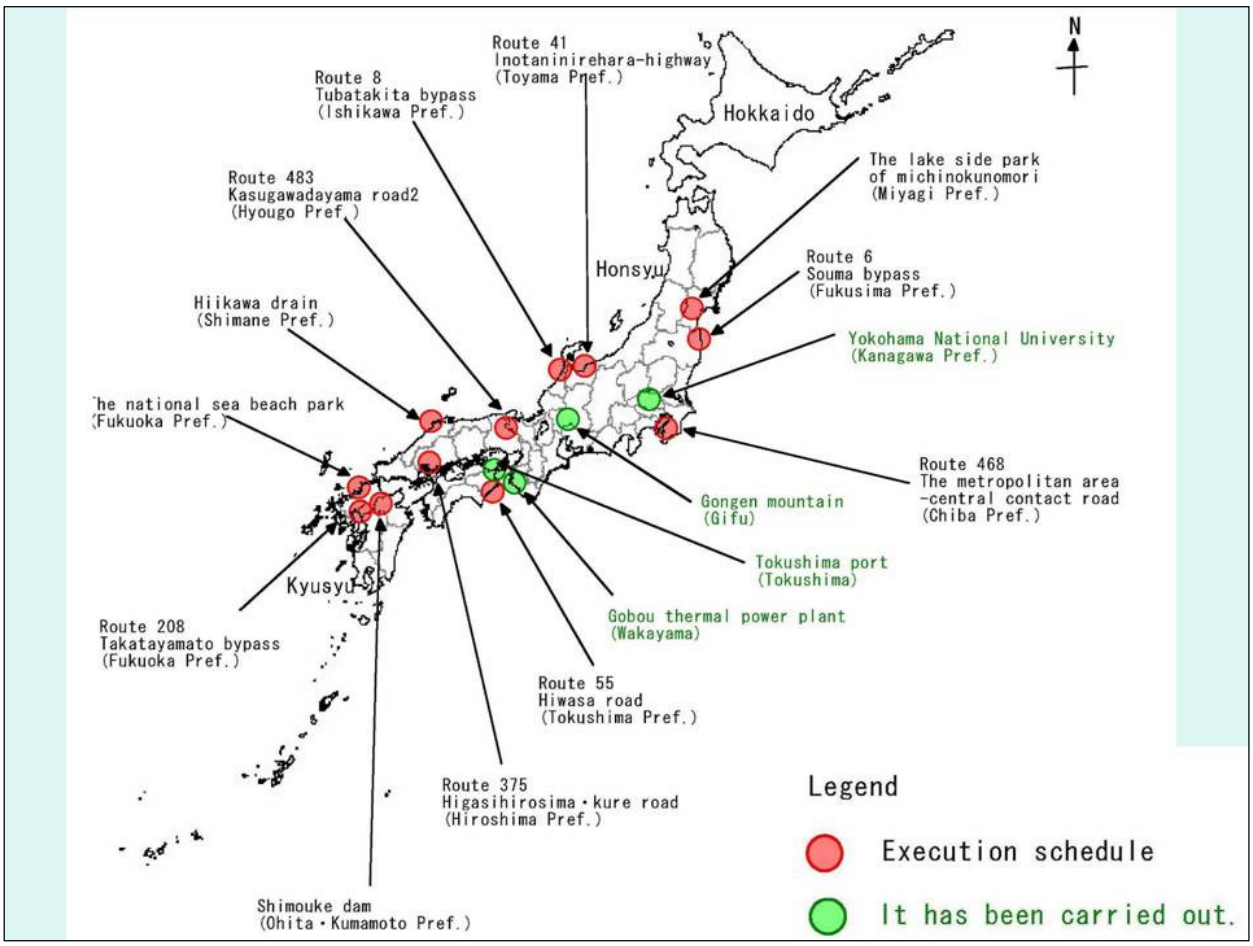
写真－148

〈写真－147〉〈写真－148〉　これは横浜のみなとみらいの開発初期の頃。こういうところには浜離宮、芝離宮のような森をつくっていただきたい。それが未来に遺す唯一の市民の生活を保証する森です。私は日本の伝統的な鎮守の森と、エコロジカルな知識をインテグレイトした、21 世紀の本物の成果を皆様と共に世界に発信したい。



写真－149

〈写真－149〉　2004 年までの我々のエコロジカルないのちの森づくりを目指して、先見性を持った企業、各種団体、行政の皆さんが市民と共に植えた実績です。



写真－150

〈写真－150〉　2005 年に 4 年に 1 回の国際植物学会がウイーンで開催された時に発表した、国土交通省の森づくりの計画です。このように日本で行なっているいのちの森づくりは、地域的には防災環境保全林であり、経済、市民生活と共生する、グローバルには生物多様性を守り、温暖化抑制機能を持つ、エコロジカルな森です。そのノウハウと実行プロジェクトを全世界に広げましょう。



写真－151



写真－152



写真－153



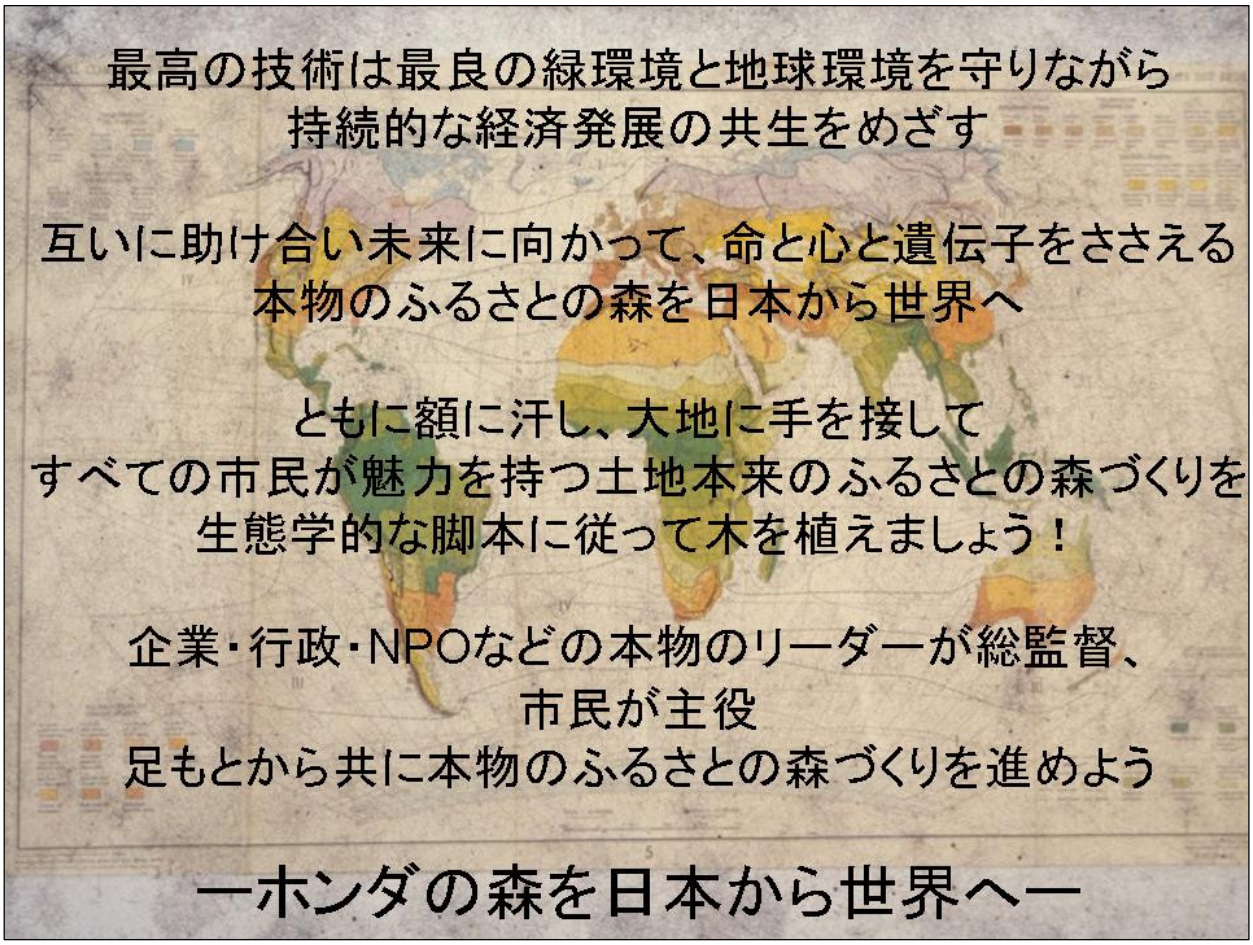
写真－154

〈写真－151〉〈写真－152〉木は誰が植えても育ちますと、国際会議で発表出来るところから進めています。〈写真－153〉〈写真－154〉何よりも子どもたちの未来のために。小学校や中学校で是非、こういう命の教育をしていただきたい。



写真－155

〈写真－155〉　本田技術研究所テストコース内の、0.3m のポット苗を混植・密植して形成されている道路環境保全林です。



写真－156

〈写真－156〉　そして本田技研の『ふるさとの森』。このノウハウをどうか皆さん、最高の技術は本物の緑環境と地球環境を守りながら、持続的な経済の発展と共生を生み出すものです。互いに助け合い、未来に向かって命と心と遺伝子を支える本物のふるさとの森を日本から世界へ広げて下さい。ともに額に汗し、大地に手を接して、すべての市民が魅力を持つ、土地本来のふるさとの森づくりを目指して、エコロジーの脚本に従って共に木を植えて下さい。企業、行政、NPO などの今日お集まりの皆さん、リーダーが総監督、市民が主役です。足元から共に本物のふるさとの森づくりを進めてください。ホンダの森を世界に、皆さんと共に発信したいと願っています。（拍手）

■このレポートは本田財団のホームページに掲載されております。
講演録を私的以外に使用される場合は、事前に当財団の許可を得て下さい。

発 行 所　財団法人 本田財団
104−0028 東京都中央区八重洲2−6−20ホンダ八重洲ビル
Tel.03-3274-5125 Fax.03-3274-5103
http://www.hondafoundation.jp
発 行 者　原　田　洋　一